埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第96集

水　窪　遺　跡

― 第３次調査 ―

2008.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第96集

水窪遺跡
（みずくぼいせき）

― 第３次調査 ―

2008.3

深谷市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、平成18年1月に深谷市・岡部町・川本町・花園町との合併により新たなスタートを迎えることとなりました。深谷市は、北部に利根川、南部に荒川が流れ、変化に富んだ地形や豊富な農産物があり、自然の恵み豊かな土地柄を有しています。

ここには、先人たちの残した足跡が、埋蔵文化財として今なお多く眠っております。なかでも、縄文時代晩期から弥生時代初期の土器を出土した四十坂遺跡･上敷免遺跡や、古代榛澤郡・幡羅郡の役所と推定される中宿・幡羅遺跡などは、埼玉県の原始・古代を考える上で欠かすことのできない遺跡と言えるでしょう。

深谷市では、合併以前から、こうした貴重な遺跡群を保護するために鋭意努力し、破壊を免れない場合は、記録保存のための発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、平成18年度に市道拡幅工事に伴い実施した調査の成果をまとめたものです。発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡４軒、古墳跡２基等が検出されました。特に縄文時代中期の土器群をはじめとした豊富な遺物群は、地域史を明らかにする上で、重要な成果を得られたものと確信しています。

本書が学術・教育関係はもとより、文化財に対する保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成20年３月

深谷市教育委員会
教育長　猪野幸男

例　言

１．本書は、平成 18 年度に実施された水窪遺跡第３次調査の発掘調査報告書である。なお、発掘調査箇所の地番は深谷市西田 379 - 2 他８筆である。

２．発掘調査は、市道岡１－ 310 号線拡幅工事を原因とする。発掘調査担当者は宮本直樹である。文化財保護法第 93 条に基づく事業者からの埋蔵文化財発掘の届出は平成 18 年８月 16 日付深教生発第 343 号にて、同法第 99 条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知は、平成 18 年８月 29 日付深教生発第 409 号にて岡部町教育委員会から埼玉県教育委員会へ進達した。

３．発掘調査は、平成 18 年９月４日から平成 18 年 11 月 20 日にかけて実施した。

４．本書の執筆・編集は鳥羽政之が行った。

５．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

６．本書の刊行に関わる組織は、以下のとおりである。

(事務局－平成 19 年度)

深谷市教育委員会教育長	猪野幸男	主　　任	知久裕昭
教育次長	石田文雄	主事補	幾島　審
次　　長	中村信雄	臨時職員	栗原貴世実
生涯学習課長	澤出晃越	(整理作業)	
主　　幹	武井　茂	臨時職員	竹野谷俊夫
課長補佐	関根代次	〃	黒澤　恵
文化財保護係長	古池晋禄	〃	佐藤由江
主　　査	森下昌市郎	〃	布施みゆき
	鳥羽政之	〃	伊藤万里子
	高村敏則		

凡　例

１．発掘調査地点位置図は深谷市都市計画図（1 / 2,500）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1 / 25,000）を使用した。

２．遺構実測図は、現場では基本的に 1 / 20 で作成し、本書掲載の段階で 1 / 60 とした。遺物については、原寸、１/３、１/４、１/５等で掲載した。

３．図中の方位は、座標北を示す。

４．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

５．土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

目　次

序

例言・凡例

目次

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過 …… 1
　１．発掘調査の経緯 …… 1
　２．発掘調査・整理報告の経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 3
　１．地理的環境 …… 3
　２．歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 9
　１．水窪遺跡の概要 …… 9
　２．発見された遺構と遺物 …… 9

Ⅳ　まとめ …… 50

挿図目次

第１図　水窪遺跡の範囲と調査地点…… 2
第２図　縄文時代草創期の主要遺跡分布…… 4
第３図　縄文時代早期の主要遺跡分布…… 4
第４図　縄文時代前・中期の主要遺跡分布…… 5
第５図　縄文時代後・晩期の主要遺跡分布…… 5
第６図　水窪遺跡３次調査全測図…… 7
第７図　１号住居跡…… 10
第８図　１号住居跡埋甕…… 10
第９図　１号住居跡出土土器…… 11
第10図　１号住居跡出土石器…… 12
第11図　２号住居跡…… 13
第12図　２号住居跡炉跡…… 13
第13図　２号住居跡遺物分布状況…… 14
第14図　２号住居跡出土土器（１）…… 15
第15図　２号住居跡出土土器（２）…… 16
第16図　２号住居跡出土石器…… 18
第17図　３号住居跡…… 19
第18図　３号住居跡出土遺物…… 19
第19図　３号住居跡出土石器…… 20
第20図　４号住居跡出土土器（１）…… 20
第21図　４号住居跡…… 21
第22図　４号住居跡遺物分布状況…… 21
第23図　４号住居跡出土土器（２）…… 22
第24図　１～９号土坑…… 25
第25図　10～14号土坑…… 26
第26図　１、７、10、14号土坑出土土器…… 27
第27図　15～17号土坑…… 28
第28図　15号土坑出土遺物…… 28
第29図　18号土坑…… 29
第30図　18号土坑出土遺物…… 29
第31図　19・20号土坑…… 30
第32図　１号墳…… 31
第33図　２号墳…… 32
第34図　１号墳出土土器…… 33
第35図　２号墳出土土器…… 33
第36図　１号墳出土石器…… 35
第37図　１～３号溝…… 36
第38図　４～10号溝…… 37
第39図　Ａ区グリッド出土土器…… 39
第40図　Ａ～Ｃ区グリッド出土土器…… 40
第41図　Ｄ区グリッド出土土器…… 41
第42図　Ｂ区グリッド出土土器…… 45
第43図　表採土器…… 45
第44図　Ａ区グリッド出土石器…… 46
第45図　Ｂ区グリッド出土石器…… 47
第46図　Ｃ区グリッド出土石器…… 47
第47図　Ｄ区グリッド出土石器…… 48
第48図　水窪遺跡出土勝坂式土器…… 50
第49図　水窪遺跡出土加曽利ＥⅠ式土器 …… 50

写真図版

【図版１】
A区全景
調査区全景（南より）
発掘調査風景
１号住居跡遺物分布状況
１号住居跡埋甕検出状況
２号住居跡完掘状況
２号住居跡No.１検出状況
２号住居跡遺物分布状況

【図版２】
３号住居跡完掘状況
３号住居跡遺物分布状況
４号住居跡完掘状況
４号住居跡遺物分布状況
１号墳完掘状況
２号墳完掘状況
15号土坑遺物出土状況
７号土坑遺物出土状況

【図版３】
１号住居跡No.１
１号住居跡No.３
１号住居跡No.８
２号住居跡No.２
２号住居跡No.１
２号住居跡No.４
２号住居跡No.５
２号住居跡No.６
２号住居跡No.９
２号住居跡No.10
２号住居跡No.21

【図版４】
３号住居跡No.１
４号住居跡No.２
４号住居跡No.４
７号土坑No.１
15号土坑No.１
18号土坑No.１
18号土坑No.３

【図版５】
A区グリッドNo.１
A区グリッドNo.25
１号住居跡No.１
１号住居跡No.２
１号住居跡No.３
２号住居跡No.25
２号住居跡No.26
A区グリッドNo.１
A区グリッドNo.２
A区グリッドNo.３
A区グリッドNo.４
A区グリッドNo.５
A区グリッドNo.６
A区グリッドNo.７

【図版６】
１号墳周溝No.１
B区グリッドNo.１
D区グリッドNo.１
D区グリッドNo.２
A区グリッドNo.18
A区グリッドNo.16
B区グリッドNo.４
１号住居跡No.４
２号住居跡No.28
２号住居跡No.31
２号住居跡No.30
３号住居跡No.３

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過

１．発掘調査の経緯

水窪遺跡は、埼玉県遺跡登録番号№.63-040 にあたる。遺跡は、JR 岡部駅の北西１ｋｍにあり遺跡中央部やや北よりを JR 高崎線の線路が横断する。

遺跡の範囲は南北約 500 m、東西約 250 mであり、略楕円の形状をとる。

発掘調査は、過去２次にわたり実施されており、本報告分は３次調査にあたる。

１～２次調査は、いずれも榛沢地区の圃場整備事業に伴うものである。線路を挟み南側に１次調査区が、北側に２次調査区が存在する。１次調査は、昭和 50 年９月～ 11 月にかけて実施された。検出された主要遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡５軒、埋甕３、古墳時代前期の竪穴住居跡８軒等である。２次調査は、昭和 51 年９月～ 12 月にかけて実施され、検出された主要遺構は縄文時代中期の竪穴住居跡 22 軒、古墳跡 10 基、平安時代の竪穴住居跡 12 軒である。以上の調査により、当遺跡が、縄文時代～平安時代にいたる豊富な内容を有すことが明確となった。特に、縄文時代中期の竪穴住居跡は、１～２次調査で 27 軒が検出されており、櫛挽台地北西部（藤治川流域）の中核的集落であることが判明した。

今回報告する発掘調査地点は、遺跡内を東西に横断する市道岡１－ 310 号線拡幅に関わる発掘調査である。市道の拡幅計画は、旧岡部町の時代から計画されたものであり、岡部町長より岡部町教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財の所在及びその取扱い」について照会がなされた。教育委員会では、埋蔵文化財の詳細を確認するための試掘調査が必要である旨を回答した。

その後、平成 18 年１月に深谷市、岡部町、川本町、花園町の１市３町による合併が行われ、市道拡幅計画は、新「深谷市」に引き継がれることとなった。平成 18 年８月 25 日、重機を用い確認調査を実施したところ、縄文時代の竪穴住居跡、古墳跡等の所在が明確になった。担当課である岡部都市整備課との協議の結果、事業実施は従来からの懸案事項であり、避けられないとの結論に至り、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

事業者である深谷市長による埋蔵文化財発掘の届出は、平成 18 年８月 16 日付で、深谷市教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の通知は、平成 18 年８月 29 日付で埼玉県教育委員会へ提出された。

２．発掘調査・整理報告の経過

⑴　発掘調査の地番

調査地点の地番は、深谷市西田 379 - ２他８筆である。発掘調査面積は、約 688.0 ㎡である。

⑵　表土除去

発掘調査は、９月４日から着手した。作業は、まずバックホー 0.4 による表土除去から始めた。調査地は、藤治川の谷に面して立地しているため西～東にかけて緩やかに傾斜している。表土は、40cm であり、この表土を除去すると遺構確認面である黄褐色ローム層上面となる。

⑶　遺構確認

表土除去は２日で終了し、遺構確認作業を実施した。先の試掘調査で把握したとおり、比較的容易に竪穴住居跡４軒、古墳跡２基、土坑、溝跡等が検出された。

⑷　遺構掘り下げ及び図化作業

確認作業の後、遺構掘り下げを開始した。基準点、水準点の測量については株式会社東京航業研究所に委託した。掘り下げについては、９月～ 11 月初旬を要した。掘り下げの途中で、遺物出土状況図、土層断面図等の作成及び写真撮影を行った。

その後、遺構完掘状況の写真、図化を行い、平成 18 年 11 月 24 日をもって発掘調査の全工程が終了し、機材等の撤収を行った。

⑸　整理作業

整理作業は、水洗・注記・遺物の復元を平成 19 年４月～７月にかけて実施した。平成 19 年８月～ 12 月にかけて縄文土器、石器実測図及びトレース図の作成を行った。縄文土器については株式会社東京航業研究所、石器については（株）シン技術コンサルタントに委託した。遺構図面の整理・トレース図の作成等は、岡部文化財センターにおいて実施し、平成 19 年 12 月までに終了した。その後、執筆・編集作業を行い、報告書は平成 20 年３月 29 日に刊行された。

第１図　水窪遺跡の範囲と調査地点　　S＝1／2,500

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

１．地理的環境

荒川以北の深谷市域は、地形的には櫛挽台地、本庄台地、妻沼低地に大きく区分される。

櫛挽台地は、荒川左岸に広がる台地であり、荒川により形成された扇状地形を有する。西部は、藤治川・針ヶ谷堀川周辺で本庄台地、山崎山丘陵と区分され、北端部は、福川左岸付近で妻沼低地と接する。妻沼低地と櫛挽台地の境界付近を東流する福川は、櫛挽台地扇端部の豊富な湧水を集めながら、深谷市北部域の農業用水として現在も重要な位置を占めている。

櫛挽台地の標高は、扇頂部にあたる寄居付近で100 m程、扇端部は35 ～ 50 m程である。また、当台地は、荒川の流路変更により形成された段丘が発達し、その形成過程により、櫛挽面、寄居面に大別される。

櫛挽面は、武蔵野面に対比され岡部町、深谷市東半をのせる。台地上には、藤治川、針ヶ谷堀川、西川、上唐沢川、押切川、下唐沢川等の中小河川が北流する。これらの河川は、扇央部から扇端部付近の湧水に端を発し、台地を北流する。一見平坦に見える台地上も、現存する中小河川や、その他の埋没谷による緩やかな起伏がある。

寄居面は、櫛挽面以降の段丘面である。櫛挽面とは、寄居高校付近から深谷市下郷、境、折之口、上宿へと連なる崖線で区分される。

この寄居面では、ローム層が比較的厚く堆積する段丘面と、その下位にありローム層の堆積が薄いか認められない段丘面に区分される。前者は、御威稜ヶ原面として別称される。境界の崖線付近では湧水が随所に認められる。さらに、寄居面以降、川本明戸付近を扇頂とする荒川新扇状地が形成される。御威稜ヶ原面との境界付近及び扇端部付近は、熊谷市域の重要遺跡が集中する。

本庄台地に相当する地域は、深谷市西端の藤治川・針ヶ谷堀川以西の地域（旧岡部町榛沢地区）である。台地上には、見馴川（小山川）・志戸川、女堀等の中小河川が北流しており、この河川の流域は、沖積地となっている。

妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された広大な低地帯である。南方で本庄台地及び櫛挽台地と接する。旧岡部町北部、旧深谷市北部が該当し、低地内では、中州的な微高地があり、この付近に遺跡が集中する。

この他、櫛挽台地と本庄台地の境界付近に山崎山（標高約117m）・諏訪山丘陵（標高約109m）、櫛挽面に仙元山丘陵（標高約98m）と呼称される残丘上の小丘陵が存在する。

一方、荒川以南は、旧川本町域南部が該当する。当地域の南半は、江南台地上にのる。江南台地も荒川の流路変更により形成された段丘面であり、扇状地形を有する。

扇頂部付近の寄居町木持では標高140 m、扇端部の熊谷市原新田付近では標高45 mを測る。この段丘面は、江南面と呼称され、櫛挽面以前に形成されたものである。江南面の下段には寄居面が存在する。この段丘面は、櫛挽台地側のそれと対応する。

江南台地上から下段の段丘面（寄居面）にかけて、荒川の支流である吉野川が東流及び北流し、その流域には狭小であるが沖積低地が形成されている。

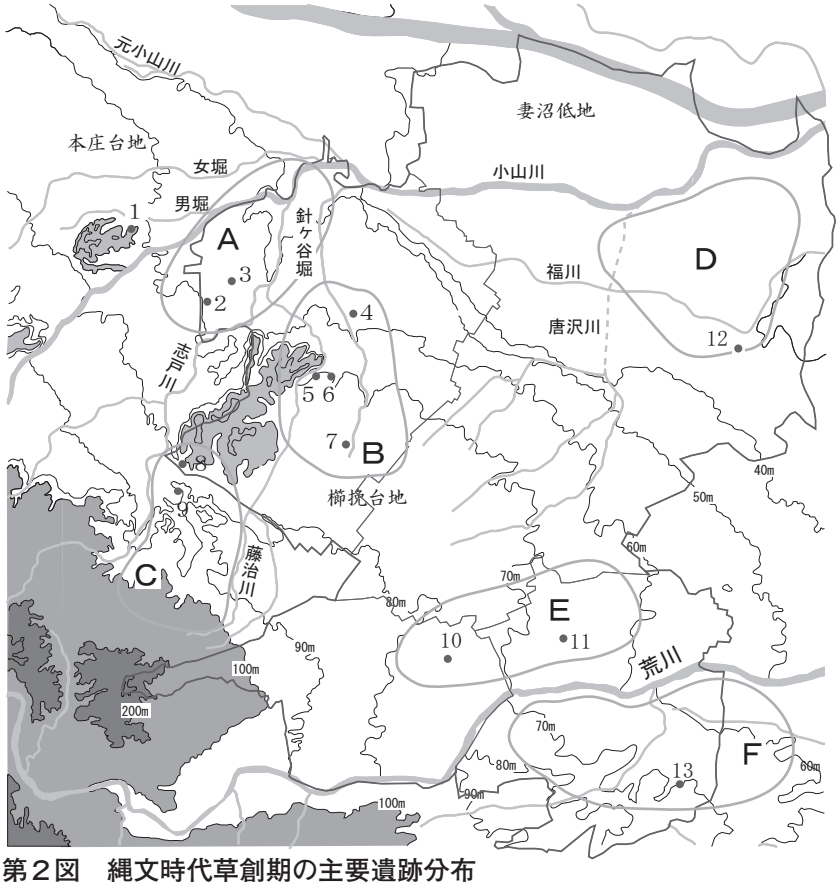
(引用・参考文献)
籠瀬良明 1975「自然堤防」古今書院
川本町　1991「川本町史－通史編」
埼玉県　1978「埼玉県市町村誌第14巻
　　－岡部町」
埼玉県　1986「埼玉県史別編３－自然」
深谷市　1969「深谷市史」
〃　　1980「深谷市史－追補編」
寄居町　1986「寄居町史－通史編」

２．歴史的環境

本項では、水窪遺跡第３次調査で検出された遺構・遺物の主要時期である縄文時代を中心に、その前後の時期を記述する。

旧石器時代から縄文時代に至ると発見された遺跡数は増加する。立地条件、遺跡群のまとまりを考慮し、深谷市域及びその周辺をＡ～Ｈに区分した。

縄文時代草創期の遺跡は、Ａ～Ｆ地域に小規模ながら散在している（第２図）。Ａ地域は、本庄台地東端部に位置し、見馴川（小山川）、志戸川合流域にあたる。石蒔Ａ遺跡で神子柴型石器が、東光寺裏遺跡で微隆起線文土器が出土した。また、本報告の



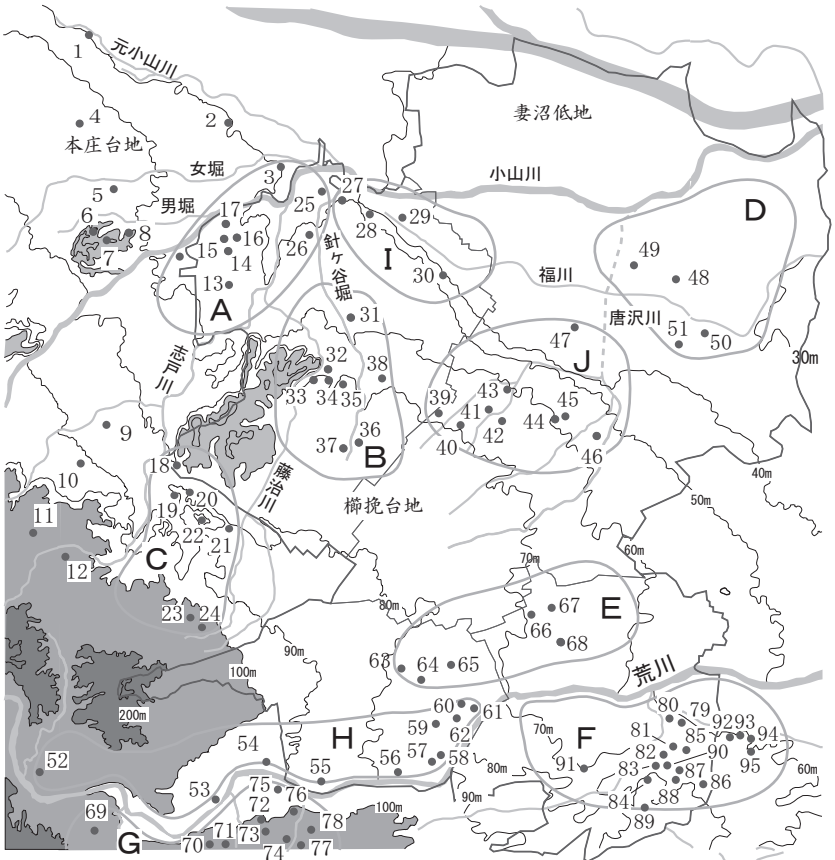
1　宥勝寺北裏遺跡
2　石蒔遺跡
3　東光寺裏遺跡
4　西龍ヶ谷遺跡
5　西谷遺跡
6　水久保遺跡
7　沼端遺跡
8　北坂遺跡
9　如来堂B・C遺跡
10　宮林遺跡
11　沢口遺跡
12　東方城遺跡
13　四反歩南遺跡
（※）この他、上本田及び畠山地内において有舌尖頭器の出土が確認されている（川本町1989）。

第２図　縄文時代草創期の主要遺跡分布

1　大久保山Ａ遺跡
2　宥勝寺北裏遺跡（本庄市）
3　北坂遺跡
4　如来堂B・C遺跡
5　西龍ヶ谷遺跡
6　茶臼山遺跡
7　西谷遺跡
8　水久保遺跡
9　中原遺跡
10　北東原遺跡
11　沼端遺跡
12　用土掘込遺跡
13　宮林遺跡
14　甘粕原遺跡
15　舟山遺跡
16　竹之花遺跡
17　白草遺跡
18　円阿弥遺跡
19　荷鞍ヶ谷戸遺跡
20　百済木遺跡
21　万願寺遺跡
22　四反歩南遺跡
23　萩山遺跡

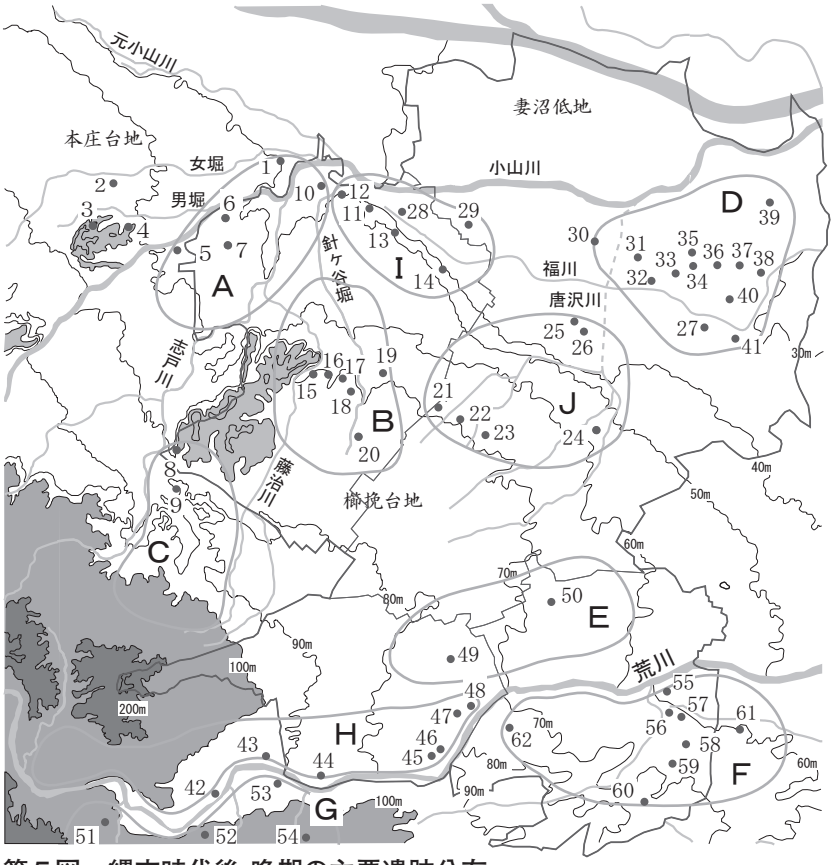
第３図　縄文時代早期の主要遺跡分布

0　5km



1 小島遺跡
2 諏訪新田遺跡
3 東五十子遺跡
4 二本松遺跡
5 公卿塚古墳
6 大久保山Ａ遺跡
7 大久保山Ｂ遺跡
8 宥勝寺北裏遺跡
9 南志渡川遺跡
10 北貝戸遺跡
11 白石古墳群
登戸地区
12 白石城
13 東光寺裏遺跡
14 宮西遺跡
15 沖田Ⅰ～Ⅲ遺跡
16 西浦北遺跡
17 大寄遺跡
18 北坂遺跡
19 甘粕山
20 沼下遺跡
21 中井丘
(山井ノ岡遺跡)
22 中山遺跡
23 用土高城遺跡
24 用土北沢遺跡
25 原ヶ谷戸遺跡
26 水窪遺跡
27 四十坂遺跡
28 上宿遺跡
29 砂田前遺跡
30 菅原遺跡
31 西龍ヶ谷遺跡
32 茶臼山遺跡
33 西谷遺跡
34 水久保遺跡
35 中原遺跡
36 北東原遺跡
37 沼端遺跡
38 芝山遺跡
39 出口遺跡
40 島の上遺跡
41 新田遺跡
42 山根遺跡
43 萱場松原遺跡
44 割山西遺跡
45 割山遺跡
46 小台遺跡
47 深谷町遺跡
48 本郷前東遺跡
49 上敷免遺跡
50 根岸遺跡
51 常磐町東遺跡
52 城見上遺跡
53 樋の上遺跡
54 塚屋・北塚屋遺跡
(中小前田１・２遺跡)
55 橋屋遺跡
56 花園町№50遺跡
57 上南原遺跡
58 台耕地遺跡
59 上南原下遺跡
60 下南原遺跡
61 下南原東遺跡
62 宮台遺跡
63 西上遺跡
64 東大塚遺跡
65 宮林遺跡
66 大林Ⅰ遺跡
67 大林Ⅱ遺跡
68 沢口遺跡
69 梅沢遺跡
70 氷川台遺跡
71 薬師台遺跡
72 甘粕原遺跡
73 ゴシン遺跡
74 露梨子遺跡
75 羽毛田遺跡
76 日向上遺跡
77 上郷西遺跡
78 むじな塚遺跡
79 山の腰遺跡
80 舟山遺跡
81 竹之花遺跡
82 白草遺跡
83 円阿弥遺跡
84 権現堂遺跡
85 荷鞍ヶ谷戸遺跡
86 百済木遺跡
87 四反歩東遺跡
88 四反歩南遺跡
89 焼谷遺跡
90 北篠場遺跡
91 上本田遺跡
92 姥ヶ沢遺跡
93 富士山遺跡

第４図　縄文時代前･中期の主要遺跡分布



1 東五十子遺跡
2 公卿塚古墳
3 大久保山Ａ遺跡
4 宥勝寺北裏遺跡
5 古川端遺跡
6 大寄遺跡
7 宮西遺跡
8 北坂遺跡
9 甘粕山
10 原ヶ谷戸遺跡
11 四十坂遺跡
12 上宿遺跡
13 砂田前遺跡
14 菅原遺跡
15 西谷遺跡
16 水久保遺跡
17 中原遺跡
18 東谷遺跡
19 芝山遺跡
20 北東原遺跡
21 出口遺跡
22 島の上遺跡
23 前畠遺跡
24 小台遺跡
25 深谷町遺跡
26 侍町遺跡
27 根岸遺跡
28 砂田前遺跡
29 矢島南遺跡
30 森下遺跡
31 上敷免遺跡
32 八日市遺跡
33 本郷前東遺跡
34 新屋敷東遺跡
35 上敷免北遺跡
36 新田裏遺跡
37 明戸東遺跡
38 原遺跡
39 砂田遺跡
40 宮ヶ谷戸遺跡
41 城下遺跡
42 樋ノ下遺跡
43 塚屋・北塚屋遺跡
(小前田１・２遺跡)
44 橋屋遺跡
45 上南原遺跡
46 台耕地遺跡
47 宮台遺跡
48 下南原東遺跡
49 宮林遺跡
50 大林Ⅰ遺跡
51 梅沢遺跡
52 八幡台遺跡
53 羽毛田遺跡
54 上郷西遺跡
55 鹿島古墳群内
56 山の腰遺跡
57 荷鞍ヶ谷戸遺跡
58 四反歩北遺跡
59 四反歩東遺跡
60 焼谷遺跡
61 富士山遺跡

第５図　縄文時代後･晩期の主要遺跡分布

0　5km

対象となる水窪遺跡でも有舌尖頭器が１点出土している。Ｂ地域は、櫛挽台地西端に位置し藤治川･針ヶ谷堀川流域にあたる。当地域の草創期遺跡群は、豊富な内容を有す。西龍ヶ谷遺跡、西谷遺跡、水久保遺跡、沼端遺跡は、多縄文、爪形文土器を有する遺跡である。Ｃ地域は、松久丘陵北縁～諏訪山にかけての地域である。北坂遺跡では微隆起線文、多縄文土器が、如来堂Ｂ遺跡では爪形文、撚糸圧痕文土器が出土した。以上Ａ～Ｃ地域は、距離的にも近接しており、県下有数の草創期遺跡の集中地帯である。今後は、当該期の遺構の検出が期待される。Ｄ地域は、櫛挽台地北縁～妻沼低地にかけての地域であるが、東方城遺跡で有舌尖頭器が出土している。Ｅ地域は、櫛挽台地南東縁の地域である。宮林遺跡、沢口遺跡で多縄文土器、爪形文を伴う住居跡、爪形文を伴う土坑が、それぞれ検出されている。また荒川右岸の江南台地上であるＦ地域では土器は検出されていないが上本田地区で有舌尖頭器が、四反歩南遺跡で矢柄研磨器が出土した。

縄文時代早期では、Ｂ地域において西龍ヶ谷、西谷、水久保、沼端遺跡が、前時代から継続する。また、新たに茶臼山、中原、北東原遺跡が新規に加わり、遺跡は、増加傾向となる。Ｃ・Ｅ地域は大きな変化は見られず、Ａ・Ｄ地域は早期段階の遺跡は寮さされていない。当段階の大きな変化としてＦ地域での遺跡調査例が増加する。重要な遺跡として撚糸文期の竪穴住居跡が検出された四反歩南遺跡、萩山遺跡等があげられる。また百済木遺跡、白草遺跡では早期後半段階の炉穴跡が検出されている。舟山遺跡では早期終末の東海系土器群が出土している。

縄文前・中期は、深谷市域及び隣接地域おける遺跡形成のピークにあたる。前期以降、明確な集落跡として認識できる遺跡が各小地域に確認できる。前期段階では、Ａ地域の宮西遺跡、四十坂遺跡で関山式後半の集落跡が検出されている。荒川右岸のＧ地域では、むじな塚、南大塚遺跡等、黒浜期にピークを迎える集落跡が検出されている。

諸磯期では、Ａ・Ｈ地域において東光寺裏遺跡・台耕地・塚屋・北塚屋遺跡等の集落跡が検出されている。

中期段階では、Ｊ地域に集落の進出傾向が顕著となる。小台、出口、島の上、萱場松原遺跡等が代表的なものである。これらの遺跡群は、加曾利Ｅ式段階に盛行する。

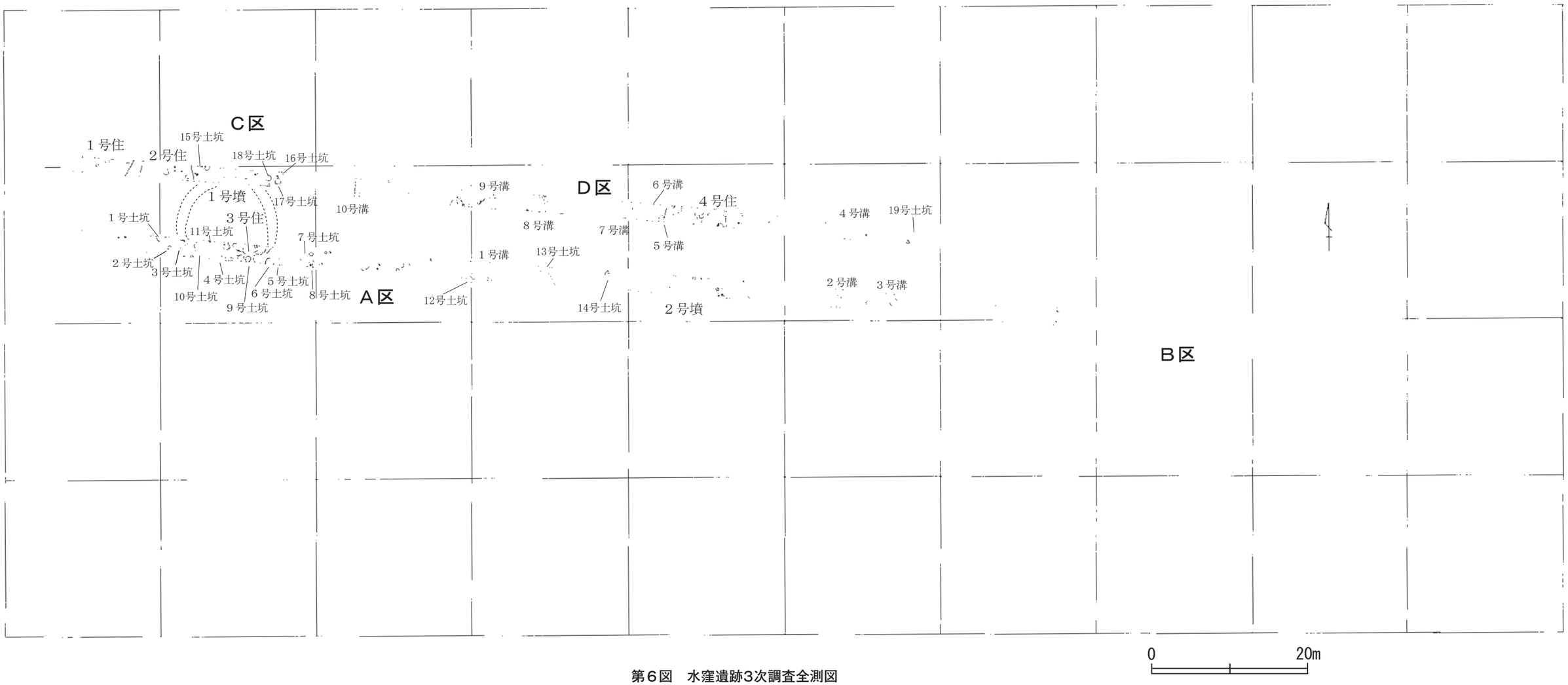
縄文時代後・晩期では、Ｄ地域における集落跡の検出例が激増する。大きな画期となるのは、称名寺～堀之内期にかけてである。当地域の重要な遺跡として明戸東遺跡、新屋敷東遺跡、上敷免遺跡等がある。その他の地域では、遺跡数は減少傾向にある。荒川右岸のＦ･Ｇ地域では、その傾向は顕著である。この中で、東谷遺跡（Ｂ地域）、原ヶ谷戸遺跡（Ｉ地域）、橋屋・樋ノ下遺跡（Ｈ地域）などは、希少な集落遺跡であり、当該期の拠点的集落と言う事が可能である。

以上、深谷市及びその周辺地域の縄文時代の遺跡動向の特徴を要約すると以下のとおりとなる。

① 縄文時代草創期は、集落跡の確認は希少であるが、Ａ～Ｆ地域に点的に確認されており、県下有数の遺跡数を誇る。早期段階でも、この傾向が継続しているがＡ・Ｄ地域で、遺跡が欠落し、Ｂ、Ｆ地域では遺跡数が増加する。

② 縄文時代前～中期では、遺跡数がさらに増加し、集落跡の調査例が増加する。中期後半段階にはＪ地域に集落の進出傾向が顕著となる。

③ 縄文時代後・晩期では、Ｄ地域において当該期の集落跡、遺跡が増加する。特に称名寺～堀の内式期にかけての遺跡が集中する傾向にある。その他の地域では、遺跡数が減少するが東谷、原ヶ谷戸、橋屋・樋の下遺跡等に拠点的集落が形成される。



第６図　水窪遺跡3次調査全測図

Ⅲ　発見された遺構と遺物

１．水窪遺跡の概要

水窪遺跡は、本庄台地東端に位置する。遺跡の標高は54ｍ前後である。遺跡東方には、針ヶ谷堀川が北流し、流域は、小規模な谷地形となっている。発掘調査は、過去２次にわたり実施されており、今回報告分は３次調査にあたる。

現在のところ、遺跡最古の遺物としては、１次調査で検出された有舌尖頭器があり、縄文時代草創期のものと推定される。その後、関山式後半段階の破片が遺跡内より採集されている（第43図）。

明確な遺構が検出されるのは、縄文時代中期中葉であり、本報告15号土坑より完形に近い遺物が出土している。また、勝坂期の遺構として、１次調査３号住居跡、２次調査グリッド出土遺物、本報告18号土坑、グリッド出土遺物等があり、中葉から終末段階の土器群が出土している。加曽利Ｅ式段階に至る竪穴住居跡の検出例は、さらに増加する。加曽利ＥⅠ式段階の遺構として、２次調査２号住居跡、５号住居跡がある。

水窪遺跡の集落が拡大・本格化する時期は、おそらく加曽利ＥⅡ式段階であろう。１次調査２号、４号、５号住居跡等が該当する。また１号住居跡は、曽利系統の土器群の出土が眼を引き、前述の竪穴住居跡より時期が下るものである。２次調査では、１号、17号、19号住居跡が当該期に所属する。

加曽利ＥⅢ式段階では、２次調査３号住居跡、17号住居跡の一部、18号、20号住居跡等が検出されている。縄文時代後期の遺物群は、今のところ検出されていないので、この時期が縄文時代集落の終末期と言う事ができる。

水窪遺跡の集落の状況は、縄文時代後期～弥生時代にかけては明確ではないが、１次調査において古墳時代前期の竪穴住居跡が８軒程検出されており、該期の貴重な集落跡として知られる。この中では１、２、４、６、８号住居跡等から土器群が豊富に出土している。また水窪遺跡第２次調査では、古墳跡が検出されている。その後、平安時代に至ると集落が再び営まれるようになる。水窪遺跡１次調査では、当該期の竪穴住居跡12軒が検出されている。

２．発見された遺構と遺物

水窪遺跡第３次調査で検出された遺構群は、縄文時代中期の竪穴住居跡４、土坑20、古墳跡２基、溝跡10条、ピット等である。以下主要な遺構・遺物について記す。尚、調査区は、既存道路を東西南北に挟むことから便宜的にＡ～Ｄ区と呼称する（第６図参照）。Ａ～Ｄ区の範囲は以下のとおりである。

Ａ区幅2.4ｍ、長さ109.0ｍ、面積261.6㎡
Ｂ区幅2.4ｍ、長さ　72.5ｍ、面積174.0㎡
Ｃ区幅2.4ｍ、長さ　28.5ｍ、面積　68.4㎡
Ｄ区幅2.4ｍ、長さ　76.7ｍ、面積184.0㎡

（１号住居跡）

Ｃ区西端に位置する。住居跡の規模は、調査区南壁で5.7ｍ、北壁で6.78ｍにわたり検出されている。確認面から床面までの深さは12 cmと浅い。床面は、ほぼ平坦である。

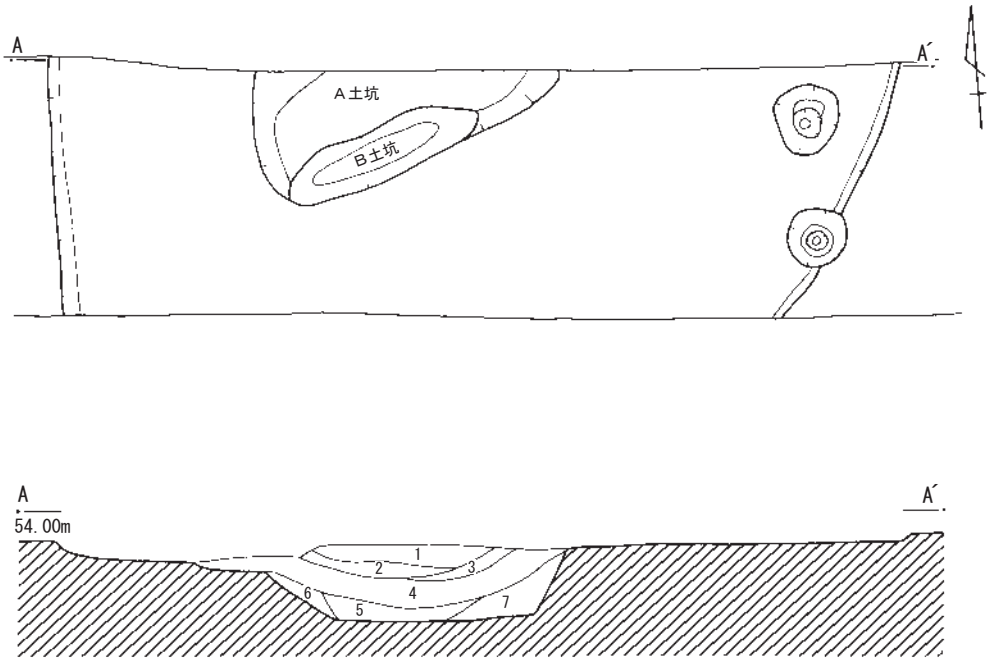
平面形については、明確ではないが円形、または楕円形に近い形をとる。床面を掘り込む形で土坑が検出されている。土層堆積状況を見る限り自然堆積に近い。土坑は、２基が切り合っている。１号住Ａ土坑は、長軸2.4m、短軸1.2m（現存長）を測る。床面からの深さは、60cmであり、土層堆積状況を見る限り自然堆積に近い。

１号住Ｂ土坑は、Ａ土坑を切り込む形で検出されている。長軸1.68m、短軸42cmを測る。床面からの深さは61.2cmである。ピットは１ヶ所のみ検出されている。平面形は、ほぼ円形であり、深さ30cmを測る。また、住居跡の壁面を切り込む形で埋甕が検出された。住居跡との関係を見る限り明らかに埋甕の方が新しい。

住居跡出土土器は、覆土中より破片が出土している（第９図）。加曽利ＥⅡ式を中心とする時期の所産である。住居跡を切り込んでいることからやや新しい時期のものであり、ＥⅡ式後半～ＥⅢ式段階であろう。石器は、石斧３点、磨石１点が覆土中より出土した。

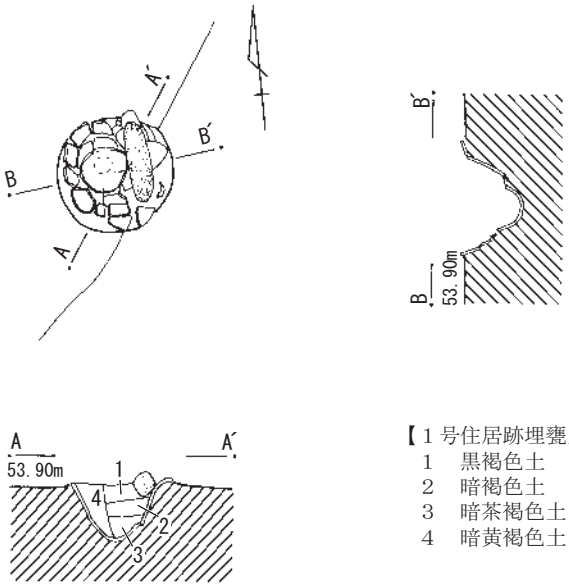
（２号住居跡）

Ｃ区西端に位置する。１号住居跡に隣接する。住居跡は、調査区南壁で7.08ｍ、北壁で6.24ｍであ



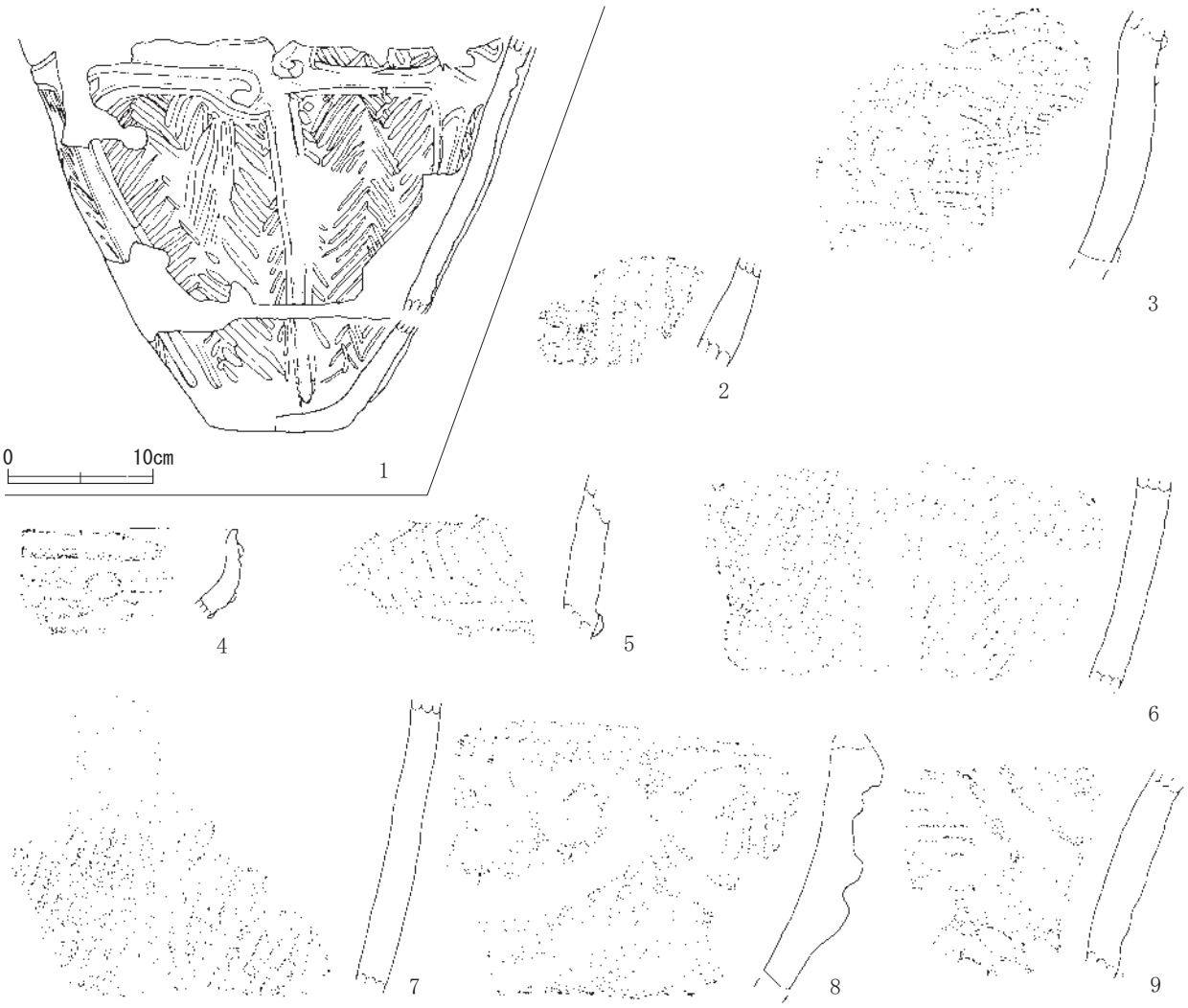
【１号住居跡土層説明】
1　黒色土　　パミス微量含む。
2　黒褐色土　　ローム粒、パミス微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
4　　〃　　ローム粒少量、ロームブロック、パミス微量含む。
5　　〃　　ローム粒多量含む。
6　黒褐色土　　ローム粒若干含む。
7　黄褐色土　　ロームブロック主体。

第７図　１号住居跡



【１号住居跡埋甕土層説明】
1　黒褐色土　　ローム粒少量含む。
2　暗褐色土　　パミス微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒少量、ロームブロック、パミス微量含む。

第８図　１号住居跡埋甕

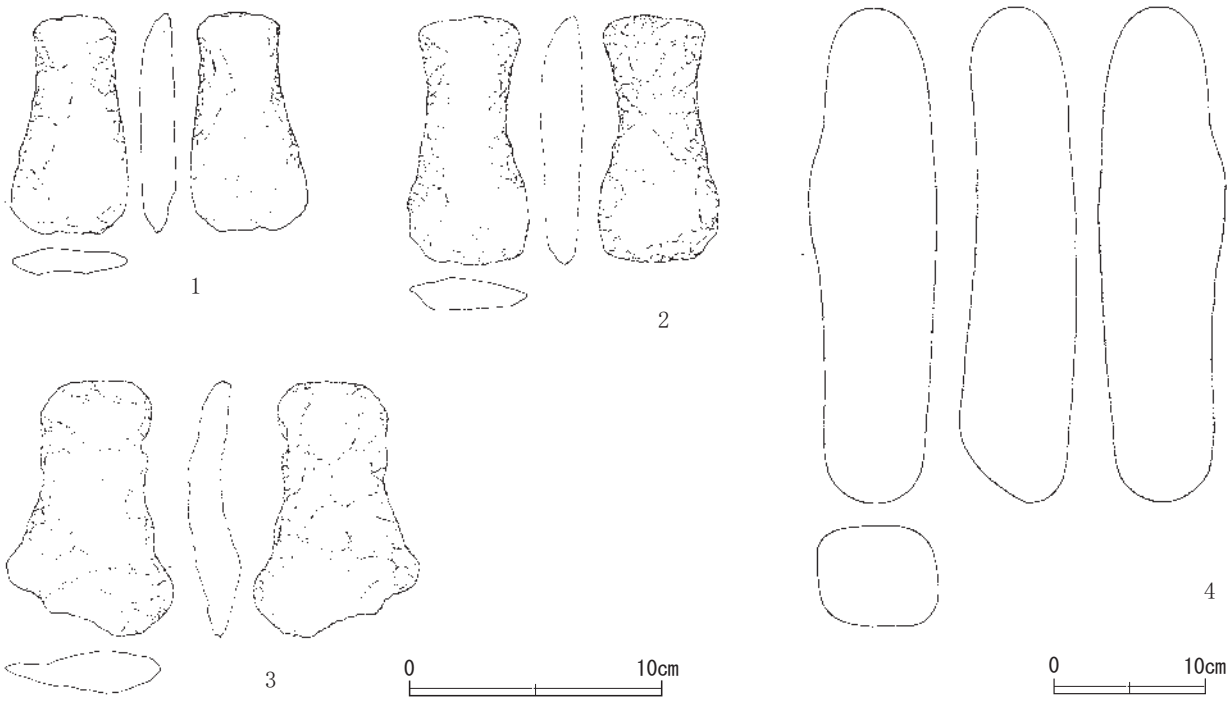


第９図　１号住居跡出土土器

0　10cm

水窪遺跡第３次調査１号住居跡出土遺物観察表

番号	出土遺構	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	１号住埋甕	縄文土器 加曽利Ｅ式 (曽利系) 深鉢	－	＜26.9＞	8.8	褐色	やや不良	長石、褐色粒	50%	口縁下部～底部 くびれの無い深鉢。 口縁部は渦巻文による区画。区画内斜行沈線文。胴部幅広の隆線文で６単位に縦位に区画。隆線文は場所により２本１単位。区画内「ハ」の字状沈線文充填。
2	１号住	縄文土器 中期中葉～後葉 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 粗い縦位の沈線文。
3	〃	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系土器) 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 渦巻状隆線による区画内に綾杉文。
4	〃	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、褐色粒	－	口縁部片 隆線による渦巻文。
5	〃	縄文土器 中期後葉？ 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	石英、長石	－	胴部片 沈線による区画内粗い条線。
6	〃	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 ３本１単位の沈線文垂下。ＲＬ縄文。
7	〃	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 ３本１単位の沈線文垂下。ＲＬ縄文。
8	〃	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、長石	－	口縁部片 口唇部欠損。太い沈線による渦巻文と楕円形区画文。区画内縦位の沈線。
9	〃	縄文土器 中期中葉？ 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 隆線による幾何学的な区画内横位沈線文充填。連続刺突文。



第10図　１号住居跡出土石器

水窪遺跡第３次調査１号住居跡出土石器観察表

番号	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	備　　考
1	打製石斧	8.5	4.6	1.3	64.7	頁岩	(弱い括れ) 短冊形。刃部使用痕。
2	打製石斧	9.9	6.4	1.8	93.8	ホルンフェルス	撥形
3	打製石斧	9.6	4.6	1.7	93.9	黒色頁岩	(弱い括れ) 短冊形
4	大型磨石	31.9	8.2	7.1	3150.0	安山岩	微弱な磨痕

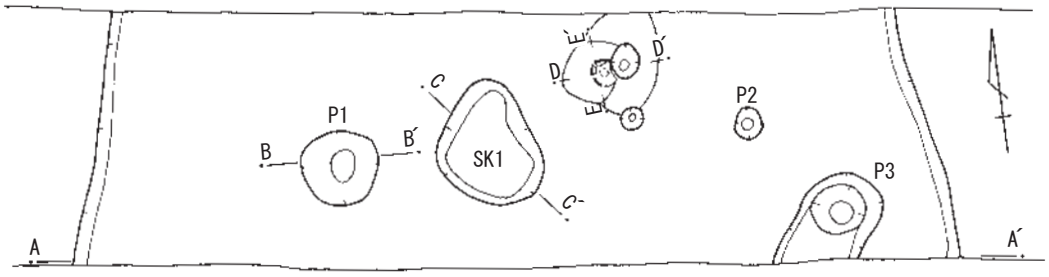
る。確認面から床面までの深さは 18cm である。床面は、ほぼ平坦である。

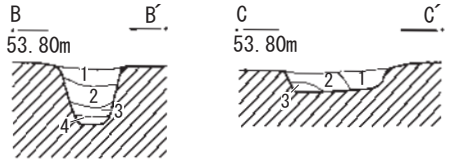
平面形については、明確ではないが、１号住居跡と同様に円形、または楕円形に近い形をとる。炉は北壁際の中央やや東よりに検出されている。
炉の規模は、長軸 78cm、短軸 72cm であり、一部調査区域外となっている。

炉体土器は、第 15 図№５である。地文を撚糸とし、頸部無文体を有するなどの特徴から加曾利ＥⅠ式の段階と推定される。炉体土器の東に接して長軸 27cm、短軸 21cm のピットが検出されており、この上層に焼土層が検出された。炉体土器の周囲は皿状に掘り窪められている（斜線部分）。また、炉南部を切り込むように小ピットが検出されている。

この他に土坑１、ピット３が検出された。土坑は住居跡中央部にあり、長軸 90cm、短軸 78cm の規模を有す。平面形は不整形である。床面からの深さは 19cm であり、底面は、ほぼ平坦である。ピット１は、土坑の西側に位置する。長軸 63cm、短軸 60cm を測る。確認面からの深さは 60cm を測る。ピット２は、炉跡東方に位置する。長軸 24cm、短軸 21cm を測る。床面からの深さは 25cm である。ピット３は、調査区南壁際東よりに位置する。長軸 80cm、短軸 60cm、深さ 34cm の楕円形の掘り込み内部に径約 40cm の円形のピットがある。

炉体土器の他、第 15 図№ 17 ～ 21 等が加曾利ＥⅠ式段階の所産である。この他に住居跡覆土中から大型の土器が掘り込まれた状況が確認される（第 14 図№１）。覆土中からも、これらと平行する土器群が検出されており、２号住居跡出土遺物は、明らかに時間差が存在する。第 14 図№２、№３などの所謂『唐草文土器』の系譜を有する土器群の出土は注目される。新しい段階の土器群は、加曾利ＥⅢ式段階に位置づけられる。





【２号住居跡土層説明】

A−A´

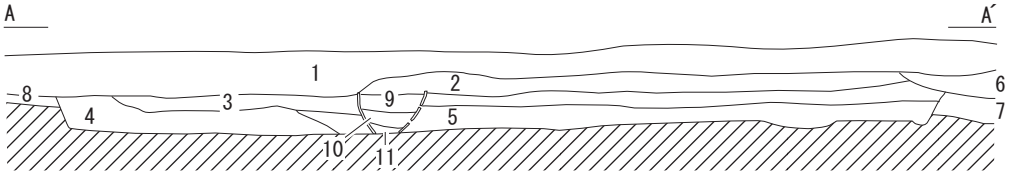
1	淡褐色土	浅間A 軽石多量含む。
2	黒褐色土	浅間A軽石少量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒子、パミス微量含む。
4	〃	ローム粒子多量含む。黒褐色土斑状に含む。
5	茶褐色土	ローム粒子、ロームブロック若干含む。
6	暗茶褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
7	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
8	〃	７層に同じ。
9	茶褐色土	ローム粒子少量含む。
10	暗茶褐色土	ローム粒子少量含む。
11	暗黄褐色土	ロームブロック主体。

B−B´

1	暗茶褐色土	ローム粒少量含む
2	〃	ローム粒、ロームブロック、炭化物粒微量含む。
3	黒褐色土	ローム粒、ロームブロック、焼土粒微量含む。
4	〃	ロームブロック多量含む。

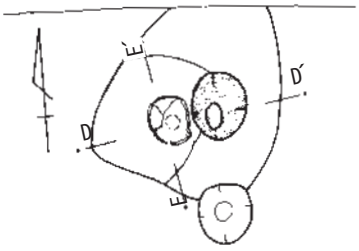
C − C´

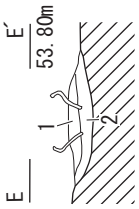
1	黒褐色土	ローム粒少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
2	暗黄褐色土	ローム粒主体
3	〃	粘土ブロック主体。

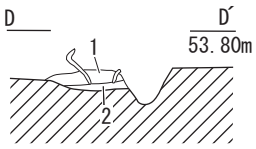


第11図　２号住居跡

0　2m





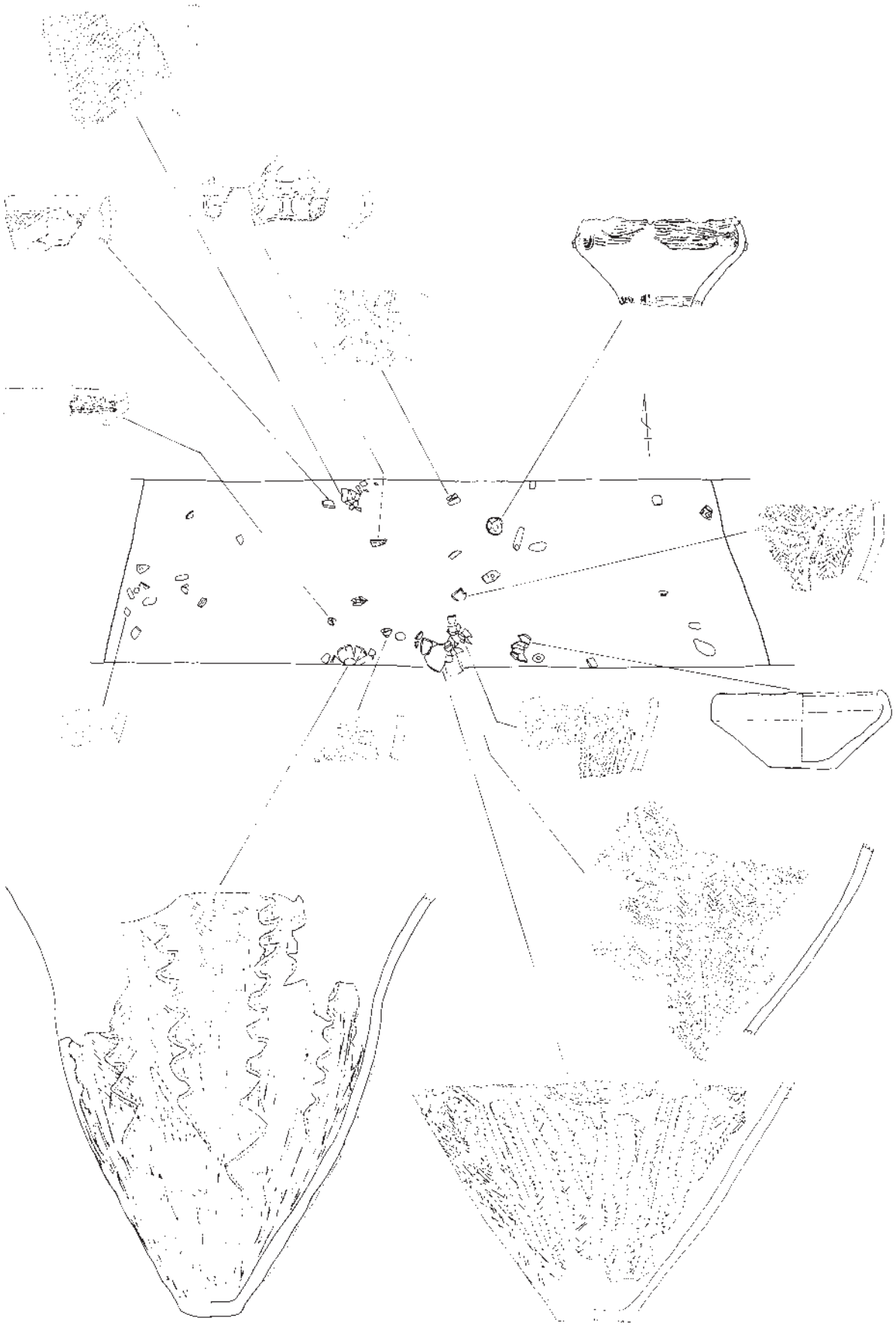


【炉跡土層説明】

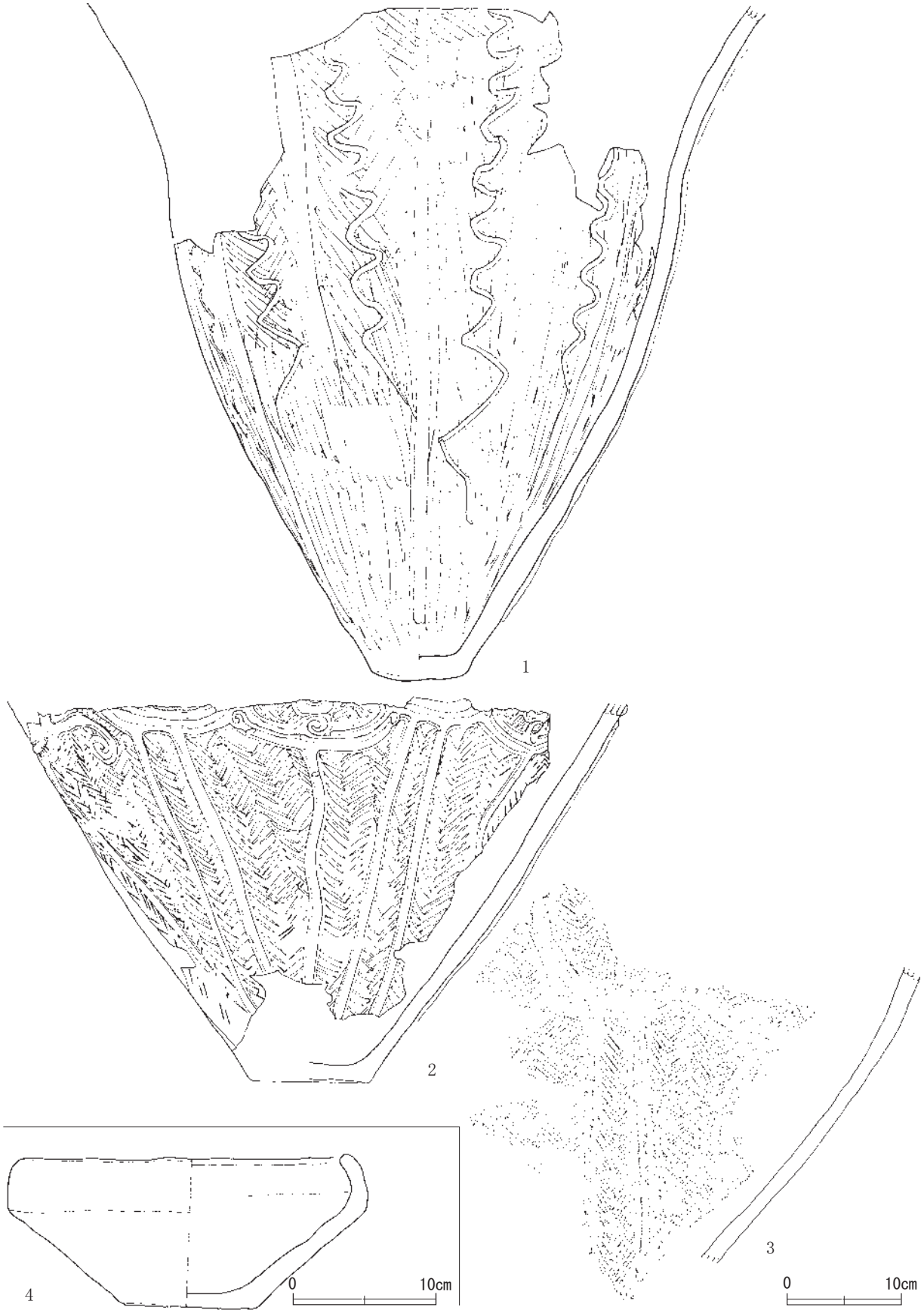
1	暗茶褐色土	焼土粒子少量含む。
2	暗黄褐色土	ローム粒子少量、焼土ブロック若干含む。

第12図　２号住居跡炉跡

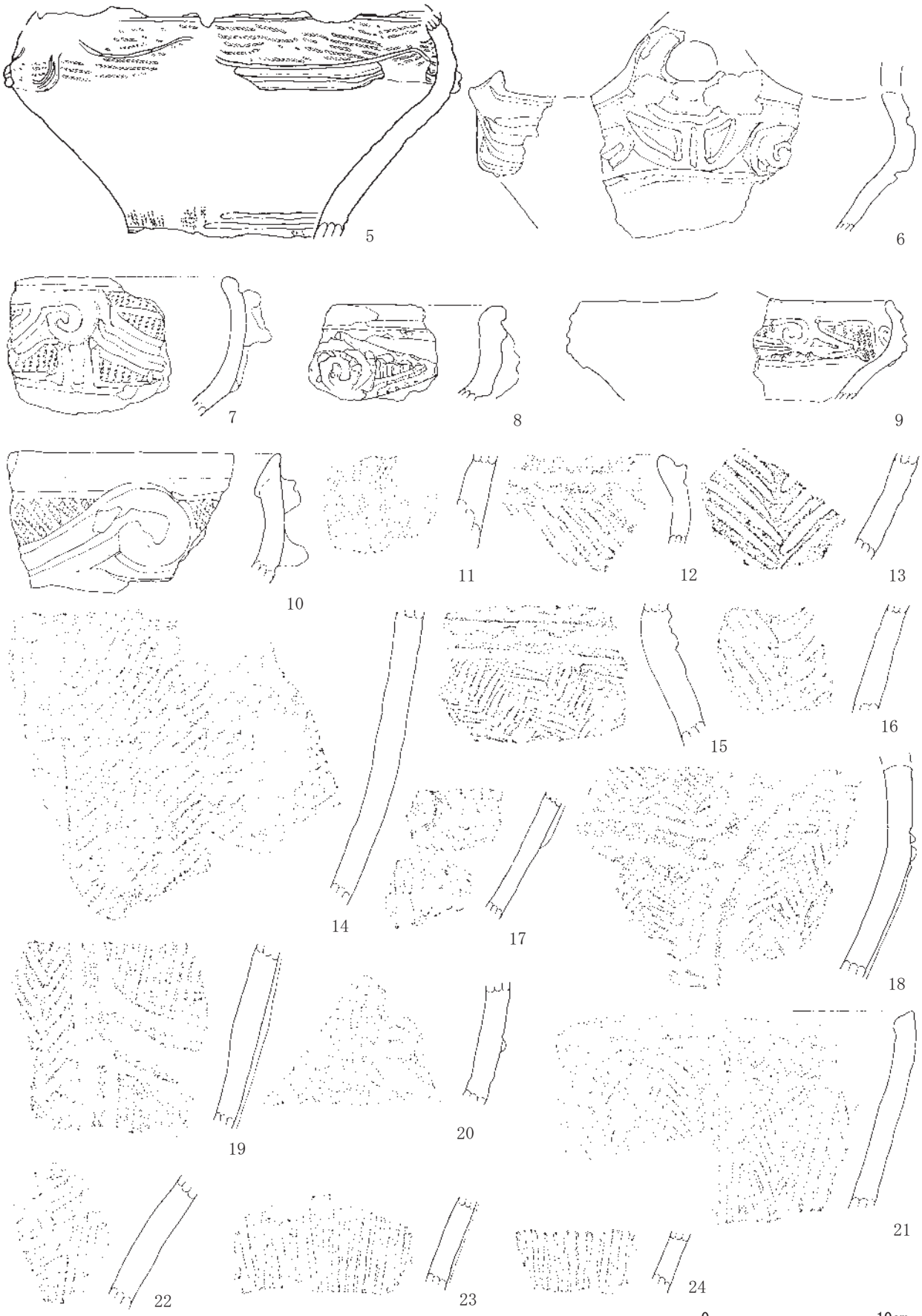
0　1m



第13図　２号住居跡遺物分布状況



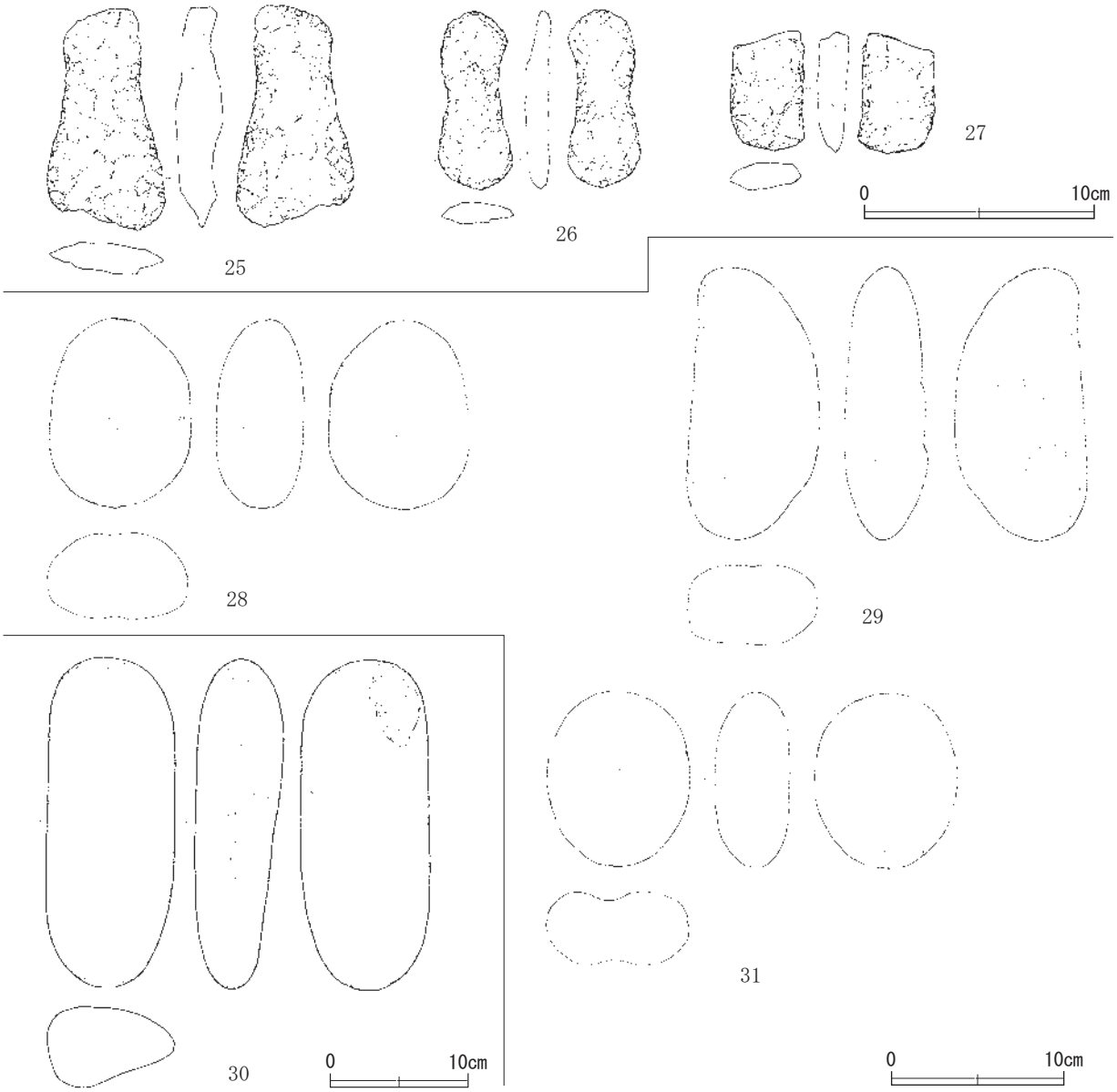
第14図　２号住居跡出土土器（１）



第15図　２号住居跡出土土器（２）

水窪遺跡第３次調査２号住居跡出土遺物観察表

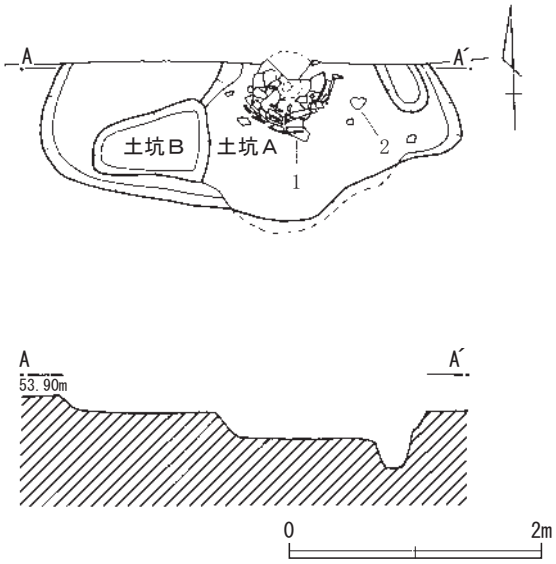
番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 加曽利Ｅ式 (曽利系) 深鉢	－	＜58＞	8.4	明褐色	普通	石英、褐色粒	60%	胴部～底部 頸部がくびれ、口縁部が大きく外反する深鉢。 縦位の隆線により６単位に分割。さらに内部を２本１組の沈線文で縦位に細分割。「ハ」の字状沈線文と縦位及び斜行沈線文で充填し、蛇行沈線文を垂下。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系土器) 深鉢	－	＜33.5＞	(10.5)	茶褐色	普通	石英、褐色粒	30%	胴部～底部 胴部を渦巻状の隆線文めぐる。さらに渦巻文より１本及び２本１単位の隆線文垂下。間を「ハ」の字状沈線文で充填。
3	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系) 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	石英、褐色粒	10%	胴部片 隆線による渦巻文連続。隆線文垂下。隆線区画内に綾杉文。
4	縄文土器 浅鉢	25.0	11.0	8.8	橙褐色	普通	長石、白色粒、褐色粒	70%	口縁部～底部 頸部が屈折し、口縁が内湾する浅鉢。無文。
5	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	＜12.0＞	－	(赤) 褐色	普通	長石、石英、褐色粒	40%	胴部 深鉢 (キャリパー形) 全体に磨耗が著しく不明瞭。口縁部∽字状文と撚糸文。頸部無文。胴上部沈線横走。地文撚糸文。
6	縄文土器 中期 深鉢	(22.0)	＜11.0＞	－	茶褐色	普通	石英、褐色粒	10%	口縁部片 波状口縁。環状有孔把手。口縁部渦巻状隆線や沈線による区画。胴部無文。
7	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	(暗) 褐色	普通	石英、褐色粒、雲母	－	口縁部片 口縁部渦巻状隆線による区画。区画内撚糸文。
8	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	石英、長石、褐色粒	－	口縁部片 口縁部渦巻状隆線による区画。区画内縦位の沈線文充填。
9	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	(12.0)	＜5.4＞	－	くすんだ褐色	普通	長石、石英、褐色粒	－	口縁部片 口縁部渦巻状隆線による区画。区画内ＲＬ縄文。頸部無文帯。
10	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	良好	長石、褐色粒	－	口縁部片 口縁部∽字状文とＲＬ縄文。
11	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	白色粒、褐色粒	－	胴部片 櫛状工具による条痕文。
12	縄文土器 曽利系？ 深鉢	－	－	－	(明) 褐色	普通	石英、長石	－	口縁部片 工縁部沈線めぐる。隆線による区画内を斜行沈線文充填。
13	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、石英、褐色粒	－	胴部片 綾杉文。
14	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 沈線による区画内ＲＬ縄文。
15	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、石英、褐色粒	－	頸部～胴部片 頸部交互刺突文。胴部綾杉文。
16	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、石英、褐色粒	－	胴部片 綾杉文。
17	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	比較的良好	長石、石英	－	胴部片 曲線的な隆線文。綾杉文。
18	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系) 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 渦巻文を伴う隆線による区画内綾杉文。
19	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系 ?) 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 隆線による区画。縦位沈線文と綾杉文。
20	縄文土器 加曽利Ｅ式 (唐草文系) 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 渦巻状隆線、綾杉文。
21	縄文土器 加曽利Ｅ式 (曽利系) 深鉢	－	－	－	茶褐色	普通	長石、褐色粒	－	口縁部片 沈線による「コ」字状区画。区画の内外に綾杉文（「ハ」の字状沈線文）
22	縄文土器 曽利系？ 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、長石	－	胴部片 ３本１単位 (?) の縦位沈線文と蛇行沈線文垂下。地文は斜行沈線文。
23	縄文土器 曽利系 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 隆線文垂下し縦位沈線文充填。
24	縄文土器 曽利系 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 縦位沈線文充填。



第16図　２号住居跡出土石器

水窪遺跡第３次調査２号住居跡出土石器観察表

番号	出土地点	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	備考
25	２号住	打製石斧	9.6	5.1	2.0	89.7	安山岩	撥形
26	〃	打製石斧	7.7	3.2	1.0	29.3	黒色頁岩	(弱い括れ) 短冊形
27	〃	打製石斧	5.2	3.2	1.3	27.5	安山岩	短冊形。刃部破片。
28	〃	磨石 (凹痕・敲打痕・磨？)	10.7	8.1	5.0	656.6	安山岩	右側縁に敲打面
29	〃	磨石 (敲打痕)	15.5	7.6	4.8	809.7	砂岩	側縁及び端部に使用痕
30	〃	大型磨石	23.8	9.2	6.3	2160.0	閃緑岩	微弱な磨痕
31	〃	磨石 (凹痕・敲打痕)	10.0	8.2	4.3	460.0	安山岩	風化著しい

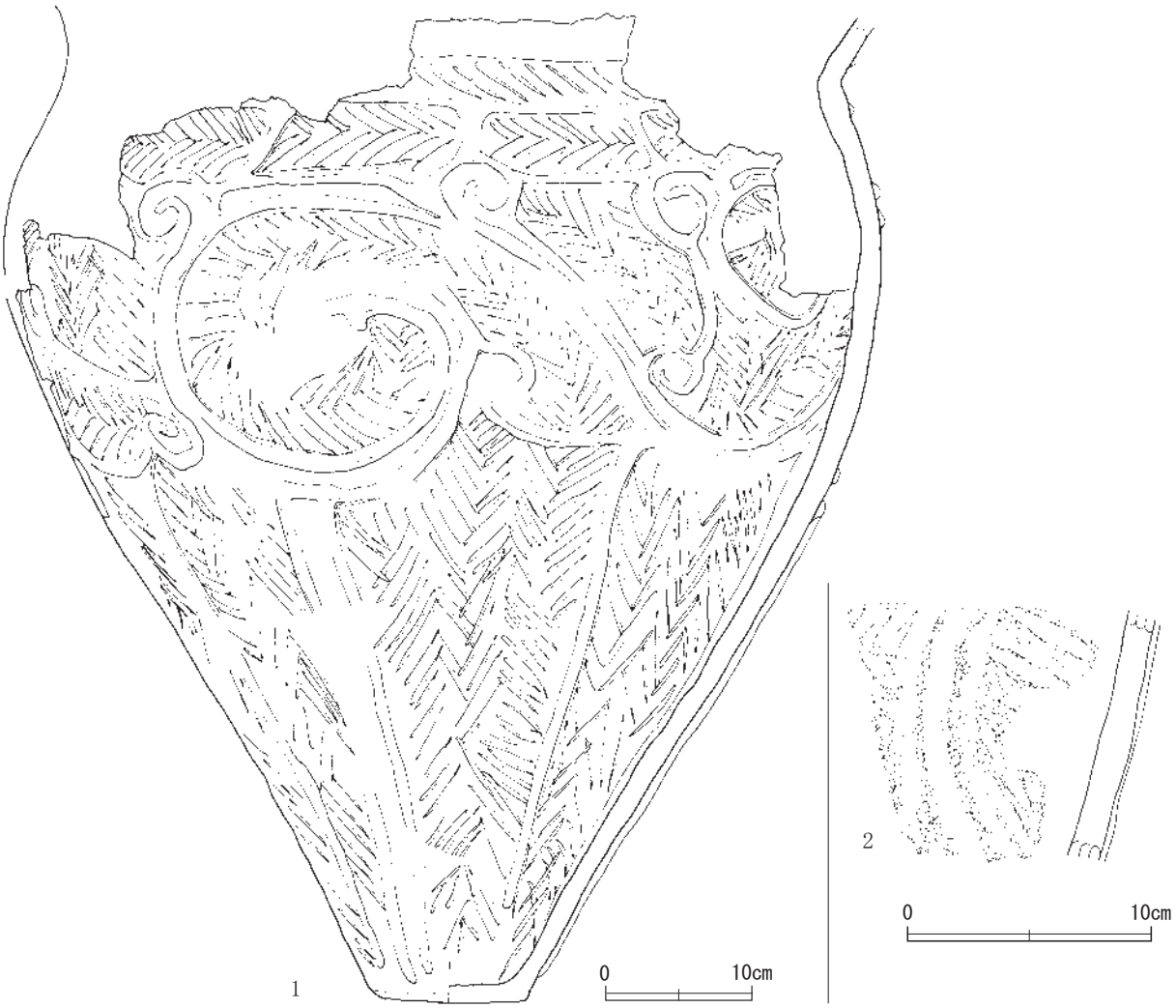


第17図　３号住居跡

（３号住居跡）

Ａ区西よりに位置する。調査区外に延びているため全体像は不明であるが、長軸 3.33 m、短軸 1.17 mで検出されている。確認面からの深さは 12cm である。住居跡の東方は、土坑により壊されている。土坑Ａの規模は長軸 1.98 m、短軸 1.2 mを測る。確認面からの深さは、27cm であり、土坑南側は、オーバーハングしている。さらに土坑Ａを切り込むように土坑Ｂが検出されている。土坑Ｂは、長軸 90cm、短軸 45cm の台形に近い形状をする。住居跡床面からの深さは 40cm である。

出土遺物は、土坑Ａより大型の甕型土器が出土した。胴部に唐草文を有するタイプであり、中部地方の系譜を有するものと推定されるが、在地で大きく変形している。



第18図　３号住居跡出土遺物

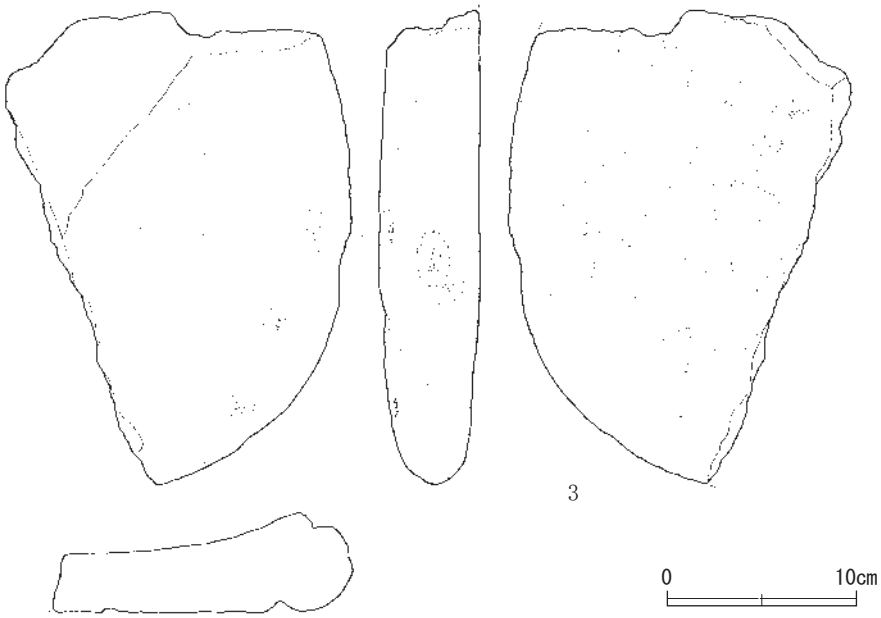
水窪遺跡第３次調査３号住居跡出土遺物・石器観察表

番号	器種	口径（㎝）	器高（㎝）	底径（㎝）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	＜ 67.6 ＞	10.8	ややくすんだ 褐色	普通	石英、褐色粒	60%	樽状の深鉢。 頸部～底部 口縁部欠損。頸部は隆線による楕円形区画、内部「ハ」の字状沈線文で充填。胴部大小の渦巻文。その下部に１本および２本１単位の隆線垂下。隆線内は複数の「ハ」の字状沈線文。
2	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 曲線的な隆線文による区画。綾杉文？
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考		
3	大型石皿	24.7	18.0	5.3	2445.0	安山岩	１／４破片。被熱あり。裏面は多孔石面		

（４号住居跡）

Ｄ区中央やや東よりに位置する。住居跡は、南壁で4.32ｍ、北壁で3.72ｍが検出されている。住居跡西側北壁よりには、不整形の土坑Ａが検出されており、本住居跡より新しいことが確認されている。

規模は、長軸1.8m、短軸1.08cmである。さらに、床面を掘り込むように土坑Ｂが、調査区南壁東よりに検出されている。

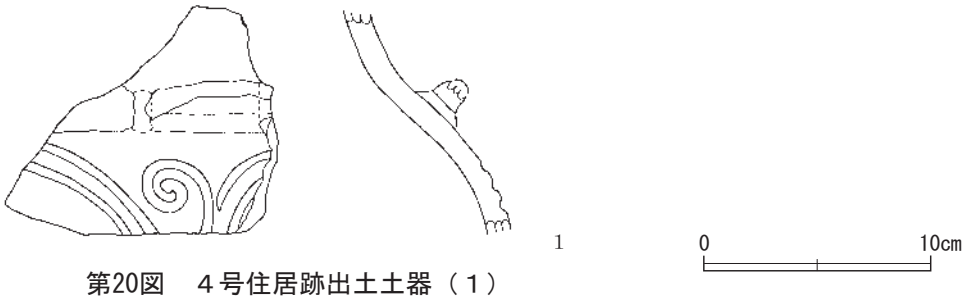


第19図　３号住居跡出土石器

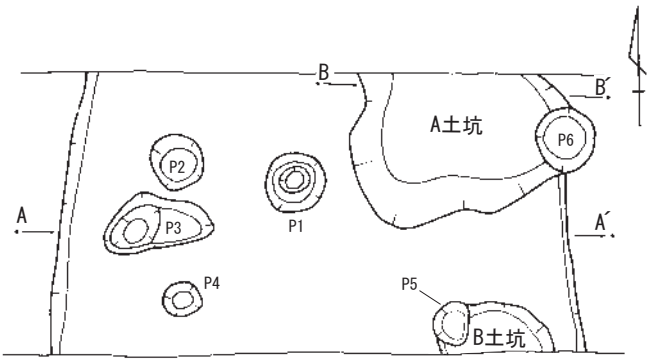
住居跡内のピットは５ヶ所において検出されている。ピット１は、土坑Ａの西に隣接する。規模は、径48cm、深さ11.8cmを測る。平面形は、円形を呈する。ピット２は、ピット１の西側に位置する。規模は、径約39cm、深さ13cmを測る。平面形は、円形を呈する。

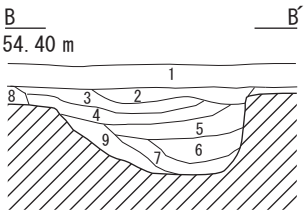
ピット３は、ピット２の南側に位置する。規模は、長軸84cm、短軸39cmを測る。平面形は、不整形を呈する。この掘り込みの西部に、さらに略円形のピットがあり、深さ55cmを測る。ピット４は、ピット３の南側に位置する。規模は、径約30cm、深さ13cmを測る。平面形は略円形となる。ピット５は、土坑Ｂを切り込むように検出された。径33cm、深さ22cmを測り、平面形は略円形となる。ピット６は、土坑Ａを切り込むように掘られており、本住居跡に伴うものではない。

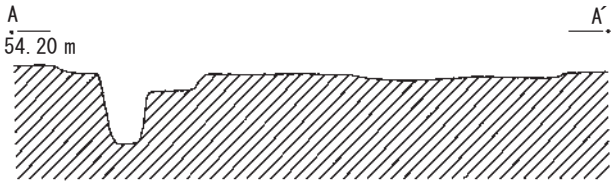
遺物は、主に土坑Ａから検出されている。勝坂式後半期から加曽利Ｅ１～ＥⅢ段階の土器群が混在していることから、明確な時期は不明である。



第20図　４号住居跡出土土器（１）





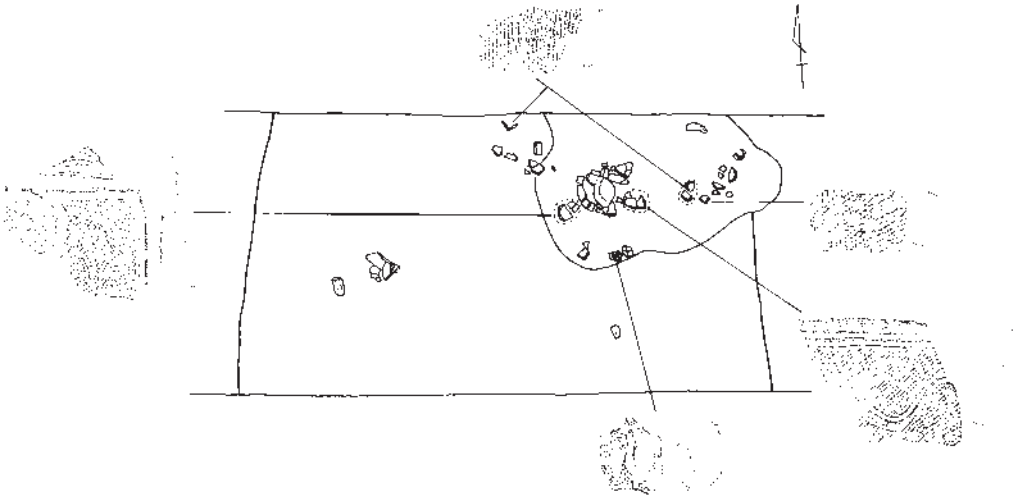


【４号住居跡土層説明】

1	暗褐色土	ローム粒子、浅間A軽石少量含む。
2	暗茶褐色土	ローム粒子、パミス少量含む。
3	黒褐色土	ローム粒子微量含む。
5	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック微量含む。
6	黒色土	ローム粒子少量含む。
7	〃	ローム粒子微量含む。
8	暗茶褐色土	ローム粒子、パミス少量含む。
9	〃	ローム粒少量、パミス微量含む。

第21図　４号住居跡

0　2m

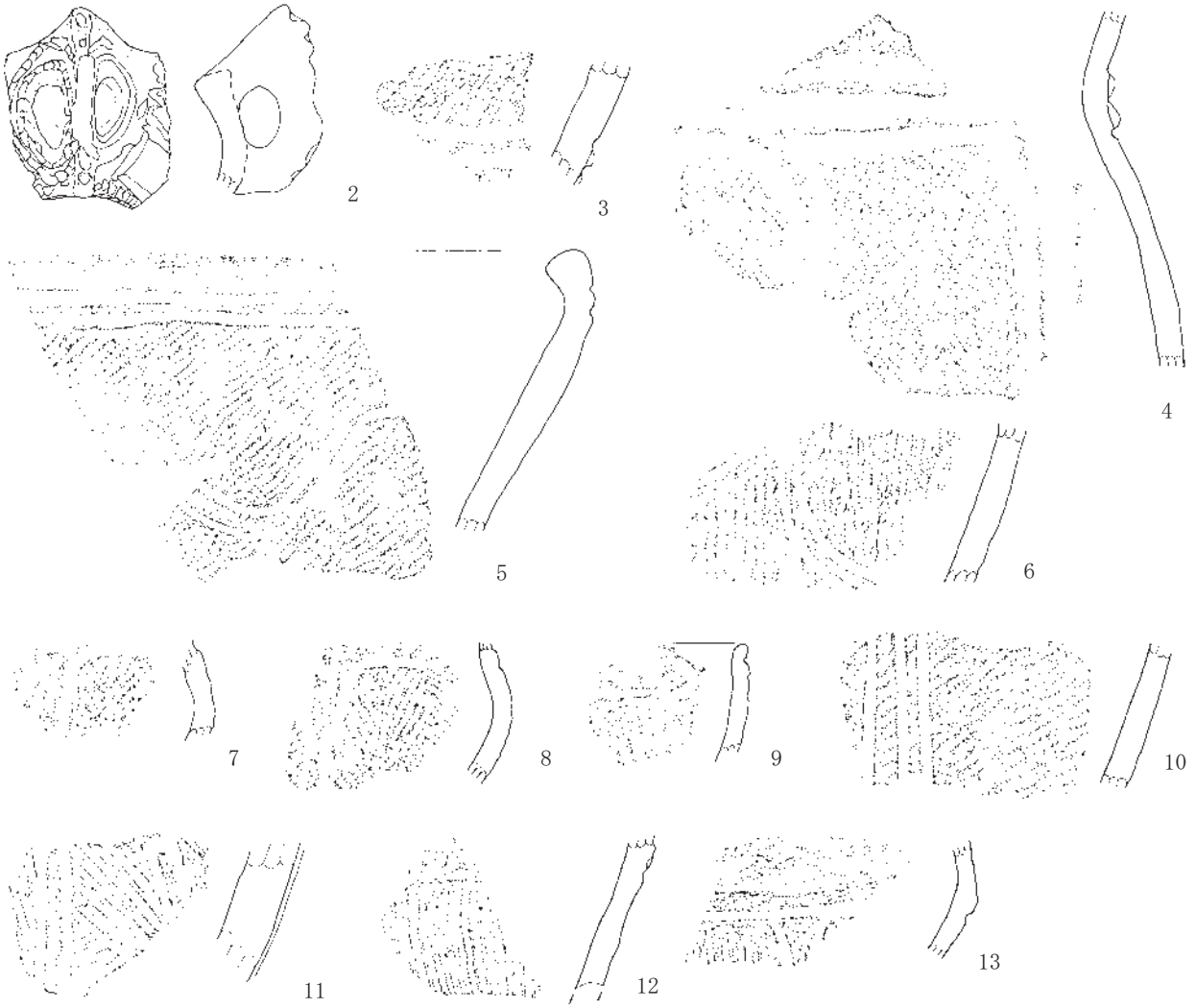


第22図　４号住居跡遺物分布状況

0　2m

水窪遺跡第３次調査４号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 加曽利Ｅ式 有孔鍔付土器	－	《9.0》	－	橙褐色	普通	長石、石英、雲母	－	胴部は、曲線的な沈線文（渦巻文あり）。 内外面ともに磨きあり。
2	縄文土器 勝坂式 深鉢把手	－	－	－	橙褐色	普通	石英、褐色粒	－	眼鏡状把手 角押文
3	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	(暗) 灰褐色	比較的良好	長石、褐色粒	－	胴部片 ２本１単位の隆線による横位区画内に撚糸文。
4	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 隆線による区画。ＬＲ縄文を横位及び縦位に施文。
5	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、褐色粒	－	口縁部片 ２本１単位の沈線による波状文。ＬＲ縄文。
6	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	石英、褐色粒	－	胴部片 ２本１単位の曲線的な沈線文。撚糸文。



第23図　４号住居跡出土土器（２）

0　10cm

水窪遺跡第３次調査４号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
7	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	石英、長石	－	胴部片 沈線による渦巻文とＵ字状区画。ＲＬ縄文を縦位と横位に施文。
8	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	石英、長石	－	胴部片 沈線による渦巻文とＵ（コ）字状区画。ＲＬ縄文を縦位と横位に施文。
9	縄文土器 加曽利Ｅ式 (曽利系？) 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	長石、褐色粒	－	口縁部片 山形の突起下渦巻状沈線文。ＲＬ縄文。
10	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	(暗)灰褐色	やや不良	石英、褐色粒	－	胴部片 ３本１単位の沈線文垂下。ＬＲ縄文。
11	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 隆線文垂下。斜行沈線文。
12	縄文土器 曽利系？ 深鉢	－	－	－	黒褐色	普通	石英、長石	－	胴部片 刺突文。縦位の沈線文。
13	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	石英、長石	－	口縁部～胴部片 口縁下沈線横走。胴部沈線文と条線文。

（１号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は長軸 1.32m、短軸 72cm を測る。確認面からの深さは６cm と非常に浅い。土坑の北半は、調査区域外に延びているため全容は不明であるが、平面形は略円形を呈すると推測される。

遺物は、縄文時代勝坂式中葉の破片が検出されている。

（２号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は長軸 1.02m、短軸 84cm であり、さらに中央部に径約 54cm のピットが掘り込まれる。遺物は、検出されなかった。

（３号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は、長軸 1.8m、短軸 1.32m であり、確認面からの深さは 30cm を測る。平面形は、不整形を呈する。遺物等は、検出されなかった。

（４号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は、長軸 2.1m、短軸 48cm（現存長）であり、確認面からの深さは 30cm を測る。壁は、底面から緩やかに立ち上がる。遺物は、検出されなかった。

（５号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は、長軸 1.14m、短軸 78cm（現存長）を測る。確認面からの深さは９cm である。底面は、平坦である。遺物は、検出されなかった。

（６号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は、長軸 1.02m（現存長）、短軸 78cm を測る。確認面からの深さは 12cm である。底面は、平坦である。遺物は検出されなかった。

（７号土坑）

Ａ区西部に位置する。土坑の規模は、径 90cm の略円形となる。確認面からの深さは 12cm を測る。底面は、平坦であるが、西から東へ若干傾斜する。

遺物は、加曽利ＥⅡ～Ⅲ式の深鉢形土器、石斧２点が出土している。

（８号土坑）

Ａ区西部に位置する。規模は、長軸 78cm、短軸 54cm（現存長）を測る。確認面からの深さは、約 12cm である。底面は中央部付近に向かいやや傾斜する。底面中央より、やや北側に小ピットが、掘り込まれている。この小ピットは、底面から 30cm の深さを有する。

水窪遺跡第３次調査１・７・10・14 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	比較的良好	白色粒、褐色粒	－	胴部片 刻みのある幅広の隆帯による区画内複列の押引文。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	(34.0)	＜17.2＞	－	橙褐色	比較的良好	長石、褐色粒	30%	口縁部～胴部 口縁部は渦巻文を伴う楕円区画。渦巻内は刺突文で充填。楕円区画内ＬＲ縄文。胴部は２本１単位の縦位沈線文。沈線間ＬＲ縄文。
5	縄文土器 中期中葉～後葉？ 深鉢	－	－	－	暗黒褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 複列の刺突文。横走する沈線間に縦位の沈線文。
6	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 ２本１単位の沈線文垂下。粗大な撚糸文。
7	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	灰褐色	やや不良	白色粒、褐色粒	－	胴部片 曲線的な隆線文。ＲＬ縄文。
8	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	長石、褐色粒	－	口縁部片 隆線による楕円形？区画内ＬＲ縄文充填。
9	縄文土器 加曽利Ｅ式？ 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 幅広の隆帯による曲線的な文様。横位の沈線文。
10	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	(暗) 褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 ２本１単位の隆線による渦巻文。ＬＲ縄文。
11	縄文土器 加曽利Ｅ式？ 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 無文。
12	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 曲線的な幅広の隆帯。綾杉文。

（９号土坑）

Ａ区西部に位置する。規模・平面形は、径 75cm の円形を呈する。確認面からの深さは、約 39cm であり、底面は平坦である。

（10 号土坑）

Ａ区西部に位置する。規模は長軸 1.68m、短軸 1.20m であり、平面形は略円形を呈する。確認面からの深さは約 24cm である。底面は平坦であり、壁は、急激に立ち上がる。

土坑内より縄文土器が検出された。加曽利ＥⅡ式を中心とする時期のものが主体となる。

（11 号土坑）

Ａ区西部に位置する。規模は、長軸 1.44m、短軸 60cm（現存長）を測る。土坑の大半は調査区域外となっているが、平面形は楕円の形状をとると推測される。底面は西から東にやや傾斜している。底面中央付近に小ピットが検出されている。このピットの規模は、長軸 18cm（現存長）、短軸 18cm を測る。平面形は、略円形であり底面からの深さは、約 60cm を測る。

遺物等は検出されなかった。

（12 号土坑）

Ａ区中央部に位置する。規模は長軸 1.92m、短軸 78cm（現存長）を測る。平面形は、略円形となる。確認面からの深さは、約 60cm である。壁の立ち上がりは、東側では急激であり、西側では緩やかである。土坑底面から、さらに一段深くなる部分がある。この部分は底面から 30cm 程掘り込まれている。

遺物等は検出されなかった。

（13 号土坑）

Ａ区中央部に位置する。規模は長軸 1.92m、短軸 96cm（現存長）を測る。平面形は、略円形となる。

確認面からの深さは、約 36cm である。底面は皿状に窪められている。土坑西側の立ち上がりは、緩やかであり、東側は、比較的急である。

（14 号土坑）

Ａ区中央部に位置する。規模は、長軸 90cm、短軸 78cm を測る。平面形は、略円形となる。確認面からの深さは 18cm である。底面は、平坦である。土坑底面北壁際には、径 21cm の小ピットがある。小ピットの深さは、底面から 30cm である。

（15 号土坑）

Ｃ区中央部に位置する。規模は、長軸 1.20m、短軸 96cm であり、平面形は略円形を呈する。確認面からの深さは、30cm である。底面は、平坦であり、壁の立ち上がりは急である。

遺物は、東壁際立ち上がり付近に横倒しになった状態で、完形に近い形の縄文土器が出土している。この土器は、中期初頭～前半段階に位置づけられるものであり、当遺跡における中期土器群最古のものである。

（16 号土坑）

Ｃ区東部に位置する。規模は、長軸 93cm、短軸 84cm の不整形を呈する。確認面から底面（最深部）までの深さは 18cm である。底面は北側に傾斜している。17 号土坑に接しているが新旧関係は不明である。

（17 号土坑）

Ｃ区東部に位置する。規模・平面形は、径 81cm の略円形である。確認面から底面最深部までの深さは 12cm であり、皿状に掘り窪められている。

（18 号土坑）

Ｃ区東部に位置する。規模、平面形は、径 1.62m の円形である。確認面から底面までの深さは 24cm であり、皿状に掘り窪められている。

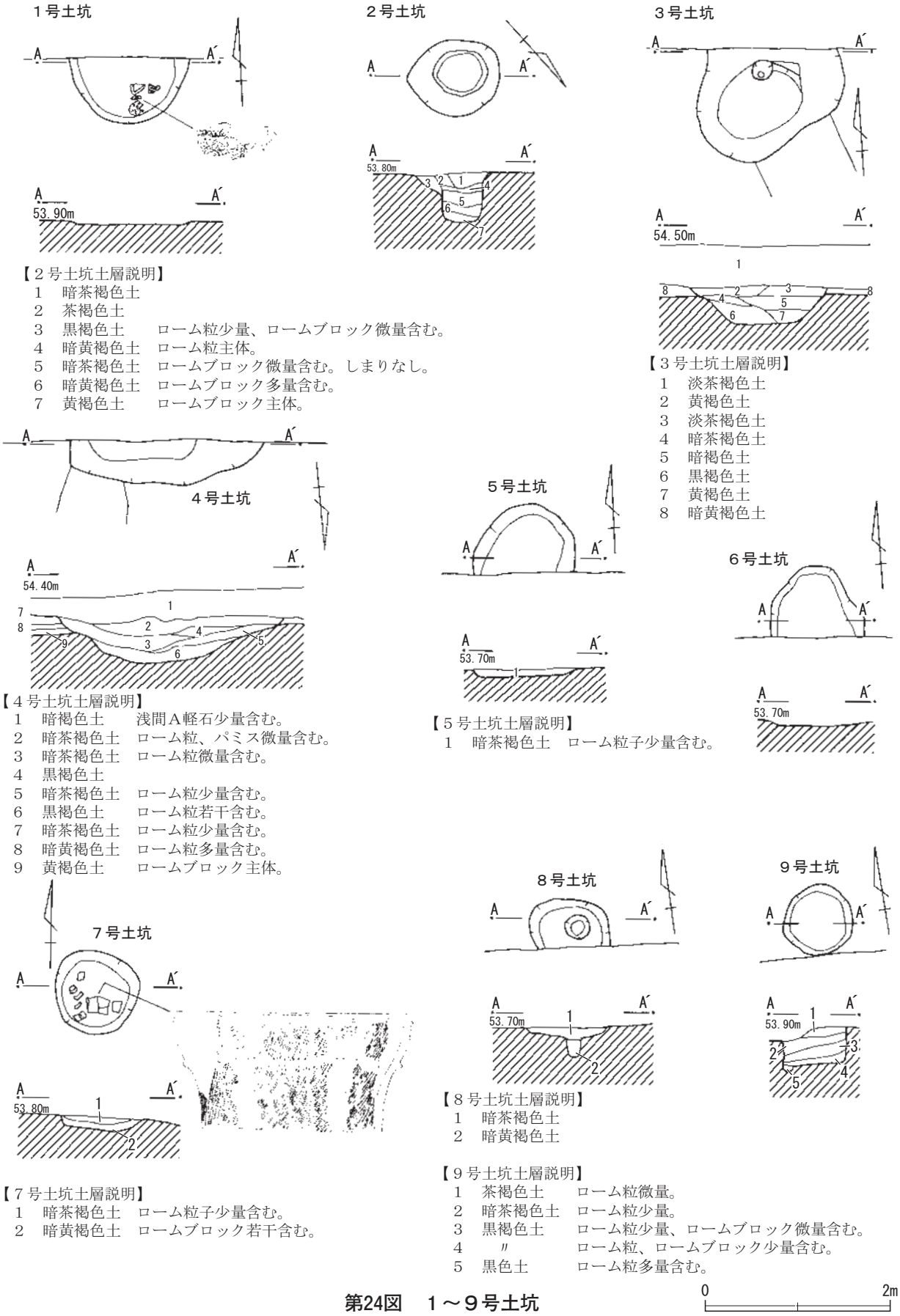
遺物は、覆土上層から潰れた状態で縄文中期勝坂式の半完形品が出土している。時期は、異なるが隣接して加曽利ＥⅢ式（曽利系）の大破片・底部が検出されたが、遺構等は、明確でなかった。

（19 号土坑）

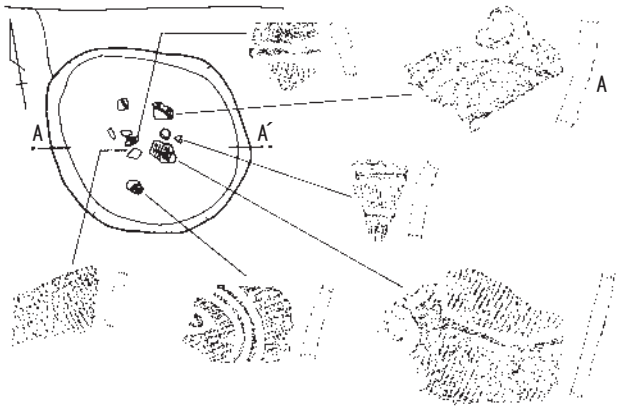
Ｄ区東部に位置する。規模は、長軸 2.04m、短軸 1.2m を測る。確認面から底面までの深さは 21cm であり、皿状に掘り窪められている。

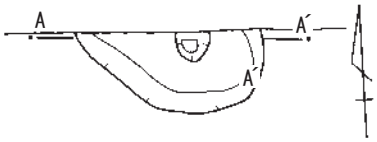
（20 号土坑）

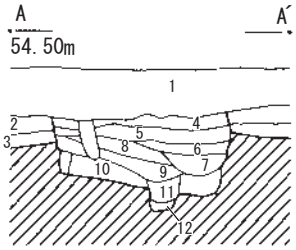
Ｄ区西部に位置する。規模は、長軸 2.82m、短


１号土坑
２号土坑
３号土坑
A
A´
53.90m
53.80m
54.50m
【２号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土
2　茶褐色土
3　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒主体。
5　暗茶褐色土　ロームブロック微量含む。しまりなし。
6　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。
7　黄褐色土　　ロームブロック主体。
【３号土坑土層説明】
1　淡茶褐色土
2　黄褐色土
3　淡茶褐色土
4　暗茶褐色土
5　暗褐色土
6　黒褐色土
7　黄褐色土
8　暗黄褐色土
４号土坑
54.40m
【４号土坑土層説明】
1　暗褐色土　　浅間Ａ軽石少量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒、パミス微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
4　黒褐色土
5　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
6　黒褐色土　　ローム粒若干含む。
7　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
8　暗黄褐色土　ローム粒多量含む。
9　黄褐色土　　ロームブロック主体。
５号土坑
53.70m
【５号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土　ローム粒子少量含む。
６号土坑
７号土坑
【７号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土　ローム粒子少量含む。
2　暗黄褐色土　ロームブロック若干含む。
８号土坑
【８号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土
2　暗黄褐色土
９号土坑
【９号土坑土層説明】
1　茶褐色土　　ローム粒微量。
2　暗茶褐色土　ローム粒少量。
3　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
4　　〃　　ローム粒、ロームブロック少量含む。
5　黒色土　　ローム粒多量含む。
0
2m

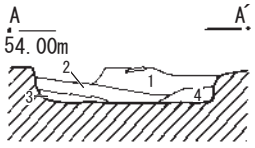
第24図　１～９号土坑







11号土坑



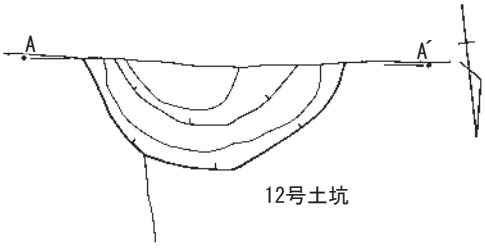
10号土坑

【10号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土
2　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。
3　暗黄褐色土　ロームブロック主体。
4　黒褐色土　　ローム粒、ロームブロック少量含む。

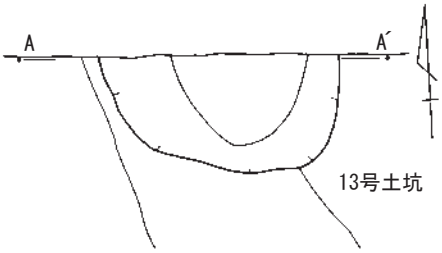
【11号土坑土層説明】
1　暗褐色土　　A軽石少量、ローム
2　茶褐色土　　ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。
4　黒褐色土　　ローム粒微量含む。
5　〃　　ローム粒少量含む。
6　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
7　〃　　ローム粒少量含む。
8　黒褐色土　　ローム粒、ロームブロック微量含む。
9　暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。
10　茶褐色土　　ローム粒、ロームブロック少量含む。
11　〃　　ローム粒多量含む。
12　黒色土　　ローム粒少量含む。
13　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
14　〃　　ローム粒、粘土粒多量、ロームブロック微量含む。
15　黄褐色土　　粘土粒主体。粘性あり。

【12号土坑土層説明】

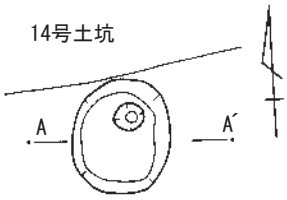
1	暗褐色土	7	暗茶褐色土
2	黒色土	8	黒褐色土
3	黒褐色土	9	黒色土
4	暗黄褐色土	10	暗茶褐色土
5	黄褐色土	11	黄褐色土
6	暗茶褐色土	12	黄褐色土

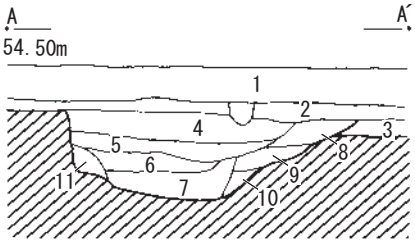


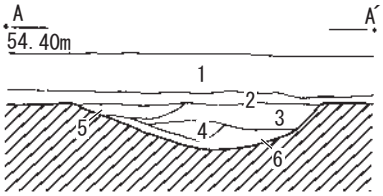
12号土坑

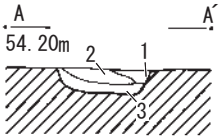


13号土坑







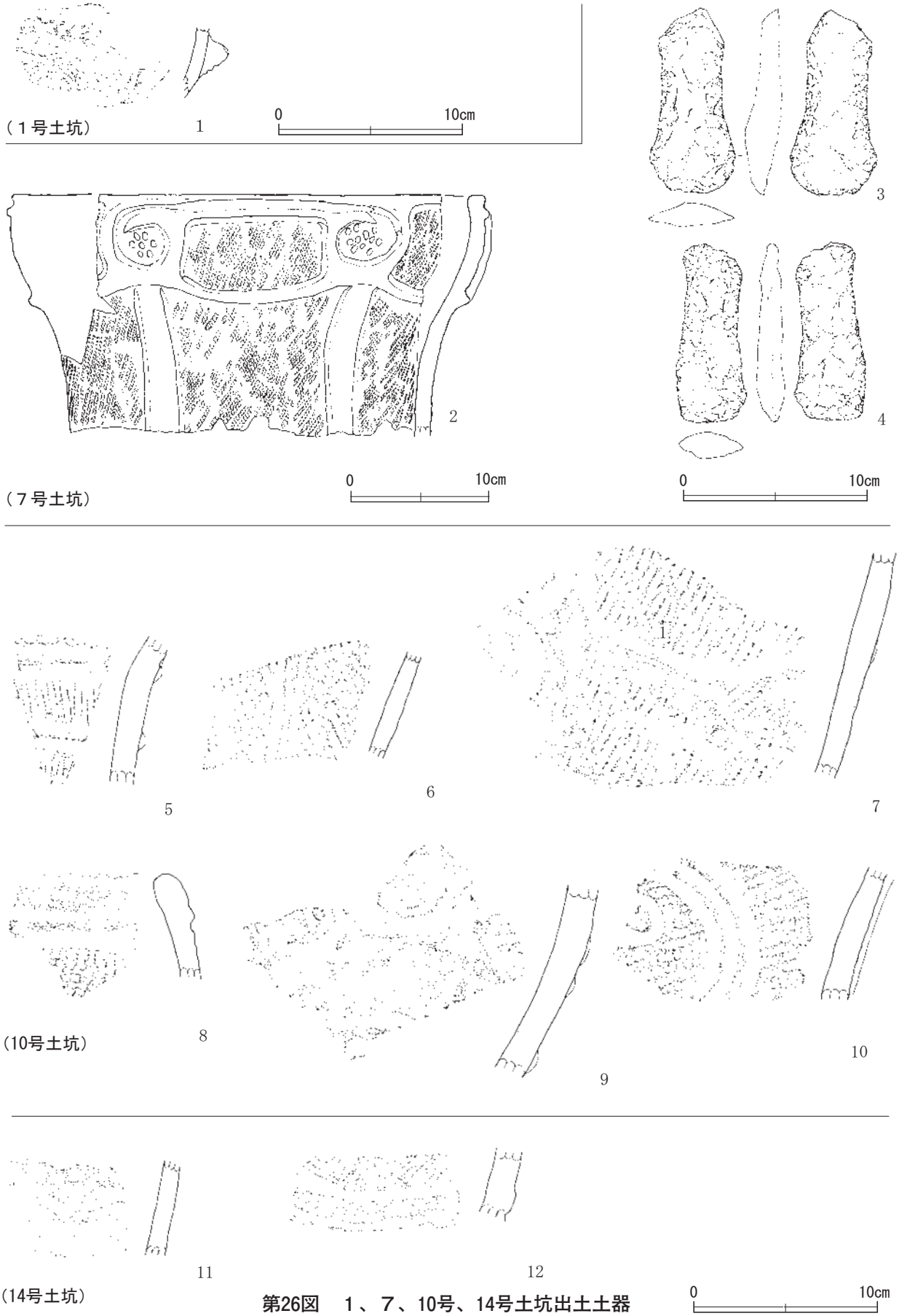


【13号土坑土層説明】
1　暗褐色土
2　暗茶褐色土　ローム粒、パミス微量含む。
3　黒褐色土　　ローム粒微量含む。
4　暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック、パミス微量含む。
5　茶褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック、パミス微量含む。
6　〃　　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。

【14号土坑土層説明】
1　暗褐色土
2　暗茶褐色土
3　黒褐色土

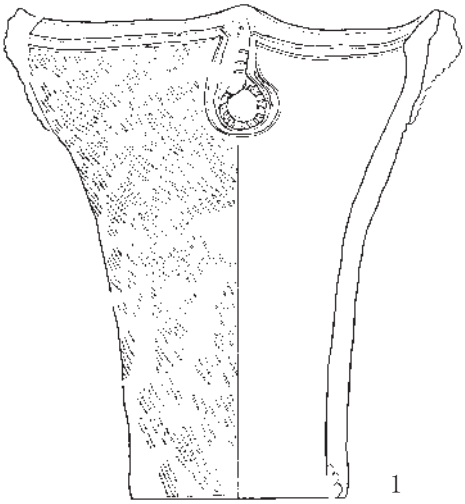
第25図　10～14号土坑

0　2m



第26図　１、７、10号、14号土坑出土土器

第27図　15～17号土坑



第28図　15号土坑出土遺物

【15号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
2　黒褐色土　　〃
3　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
4　黄褐色土　　ローム粒微量含む。
5　暗褐色土　　ロームブロック主体。しまり、粘性強い。

【16、17号土坑土層説明】
1　暗茶褐色土　ローム粒多量含む。
2　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
3　黒褐色土　　ローム粒、ロームブロック少量含む。

水窪遺跡第３次調査７号土坑出土石器観察表

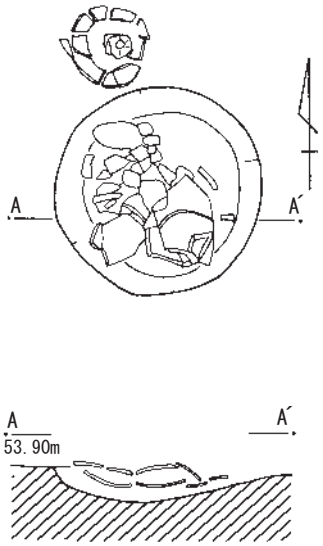
番号	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石材	備考
3	打製石斧	10.0	4.6	1.8	71.0	黒色頁岩	短冊形（短い括れ）
4	〃	9.6	3.8	1.6	59.3	〃	短冊形

水窪遺跡第３次調査 15 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 中期中葉 深鉢	24.1	25.8	(11.0)	(赤)褐色	やや不良	石英、褐色粒、小礫	80%	口縁部～胴部 波状口縁。波状口縁にそって２条の沈線。波頂下より刻みのある隆線垂下。隆線の下部は円文を呈し内側が凹む。胴部ＲＬ縄文。

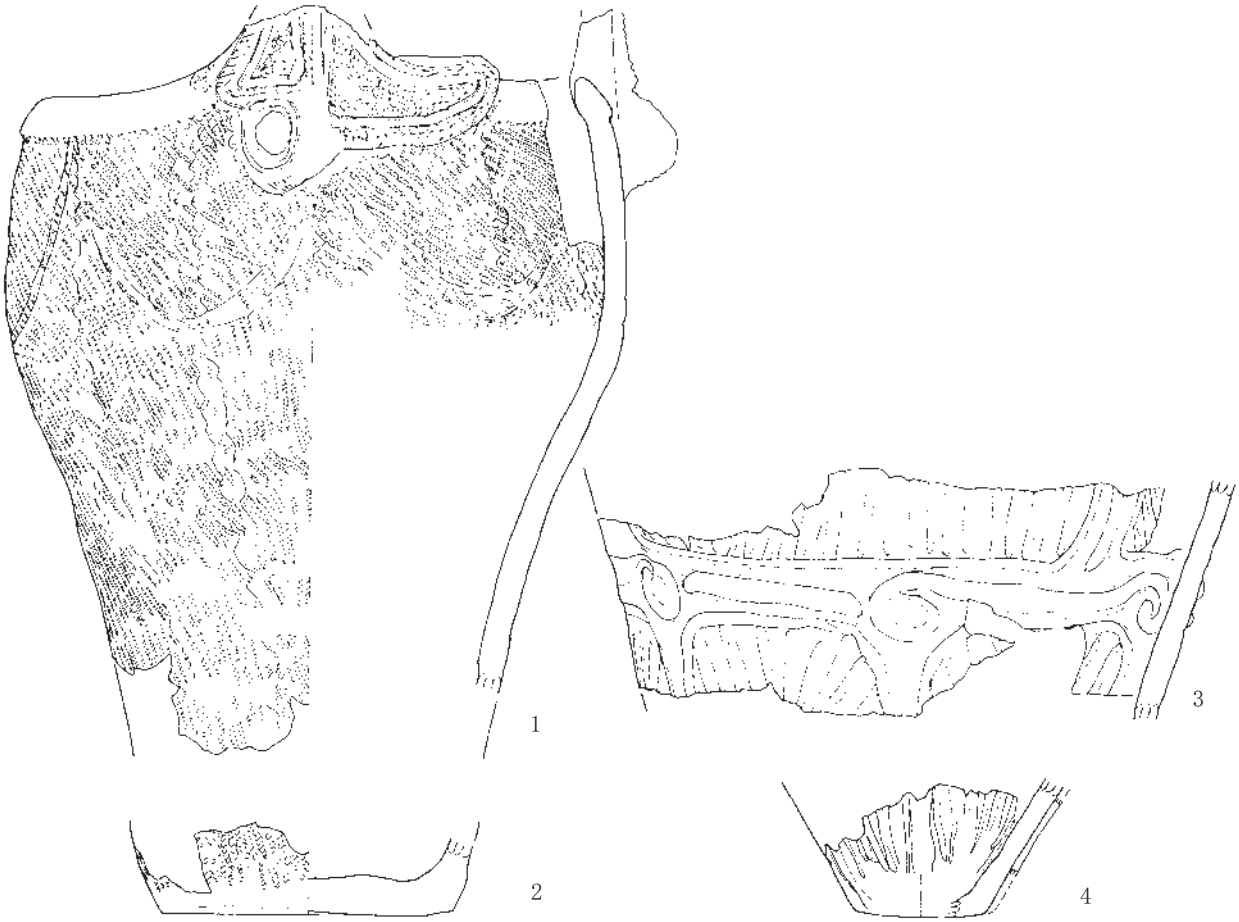
水窪遺跡第３次調査 18 号土坑出土遺物観察表

1	縄文土器 中期中葉 深鉢	29.8	<39.5>	－	(赤)褐色	普通	長石、褐色粒	70%	樽状の深鉢 口縁部～胴部 山形の大型把手１単位存在。把手に沿って矢羽状の刻み、中心を刻みのある隆線垂下し、下部に環状把手。胴上部を２条の沈線による連弧文横走。さらに蛇行沈線文垂下。胴部ＲＬ縄文。
2	縄文土器 中期後半 (加曽利Ｅ式) 深鉢	－	<5.0>	20.1	茶褐色	普通	褐色粒、石英	5%	底部 ２条の沈線文垂下。ＲＬ縄文。
3	縄文土器 加曽利Ｅ式 (曽利系) 深鉢	－	<12.6>	－	灰褐色	やや不良	長石、褐色粒、白色粒	20%	胴部 横長の楕円形（?）区画内を縦位の太い沈線で充填。胴部は渦巻文をもつ縦位の「コ」の字状区画文で分割。区画内斜行する太い沈線文で充填。
4	縄文土器 中期後半 (曽利系) 深鉢	－	<7.0>	7.0	橙褐色	やや不良	長石、褐色粒	5%	底部 幅太の隆線垂下。隆線間は縦位の粗い沈線文。



第29図　18号土坑

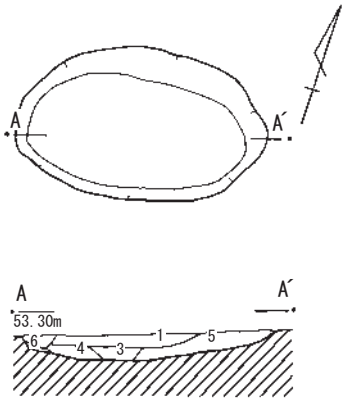
0　2m



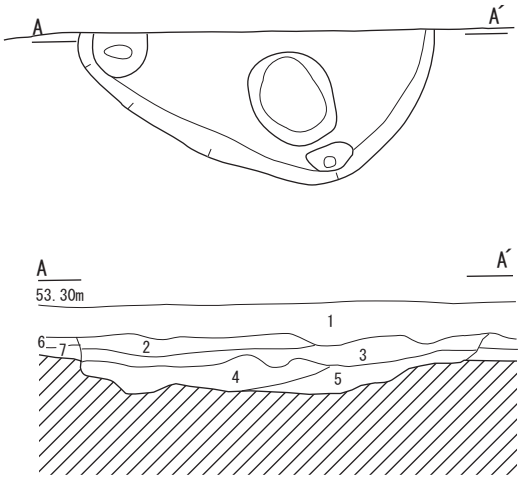
第30図　18号土坑出土遺物

0　10cm

19号土坑



20号土坑



第31図　19・20号土坑

0　2m

【19号土坑土層説明】

1	黒色土	ローム粒、ロームブロック少量。
2	黒褐色土	ローム粒、ロームブロック微量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。
4	〃	ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
5	茶褐色土	ローム粒多量含む。
6	黄褐色土	ロームブロック主体。

【20号土坑土層説明】

1	暗茶褐色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。
2	〃	ローム粒微量含む。
3	〃	ローム粒、ロームブロック微量含む。
4	暗黄褐色土	ローム粒、ロームブロック多量含む。
5	〃	４層よりやや色調暗。
6	暗茶褐色土	ローム粒子少量含む。

軸 1.2m（現存長）を測る。底面最深部の深さは、確認面からの深さは 24cm である。

（１号墳）

Ａ区からＣ区にかけて検出された。径 12.9 ｍの円墳と想定する。Ａ区では、周溝が途切れる部分が存在しており、全周していないことが明確となっている。周溝内部は、土坑状の落ち込みが２箇所に検出された。土坑Ａは、Ｃ区周溝底面に検出された。長軸 3.2m、短軸 1.2m（現存長）を測る。周溝底面からの深さは 15cm である。土坑Ｂは、土坑Ａの西側に隣接する。長軸 1.2m、短軸 72cm を測る。周溝底面からの深さは 10cm である。

Ａ区には周溝を切る形で土坑Ｃが検出された。規模は、長軸 1.8m、短軸 1.44m を測る。平面形は、不整形を呈する。確認面からの深さは 30cm である。

周溝の幅は、一定していない。最も幅広部分は、Ｃ区にある。Ａ区で検出された周溝は、やや狭いので、南へ向かい幅狭となると推定される。

確認面から底面までの深さは、7.5cm ～ 15cm となる。遺物は、土師器、須恵器破片、縄文土器、石器等が覆土より出土しているが、古墳の時期を明確に示すものはない。

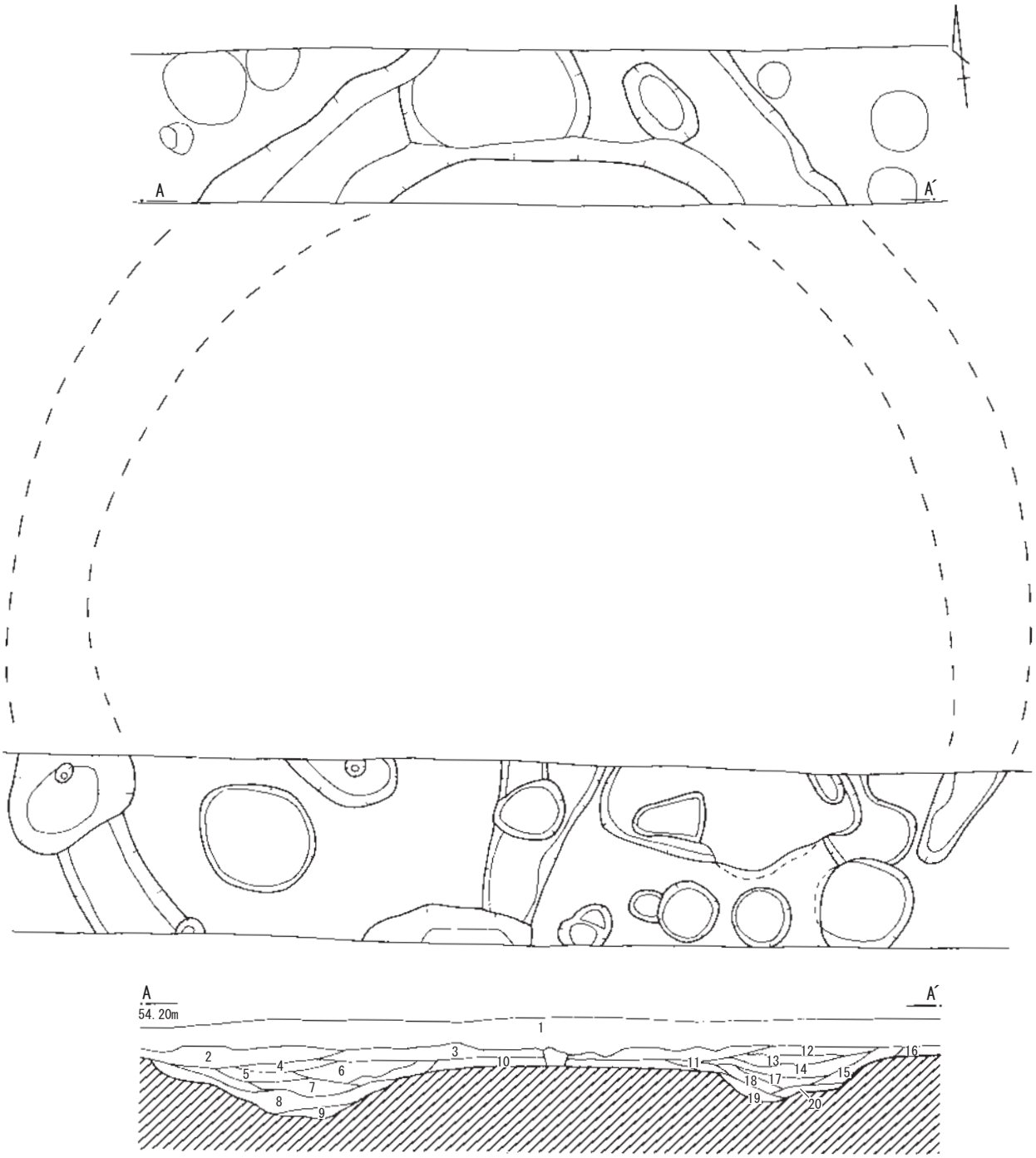
（２号墳）

Ａ区東よりに所在する。遺構の全体像は、明確ではないが、古墳の規模は不明である。

周溝底部及び壁際には、11 ヶ所のピットが所在するが、その性格等は不明である。周溝東側は、やや幅広であり、これに対し西側は幅狭となる。

確認面からの深さは、東部で 72cm、西部で 28cm を測る。底部は平坦であり、立ち上がりは緩やかである。

遺物は縄文土器、石器が覆土より検出されたのみであり、古墳の時期を示す遺物は検出されなかった。

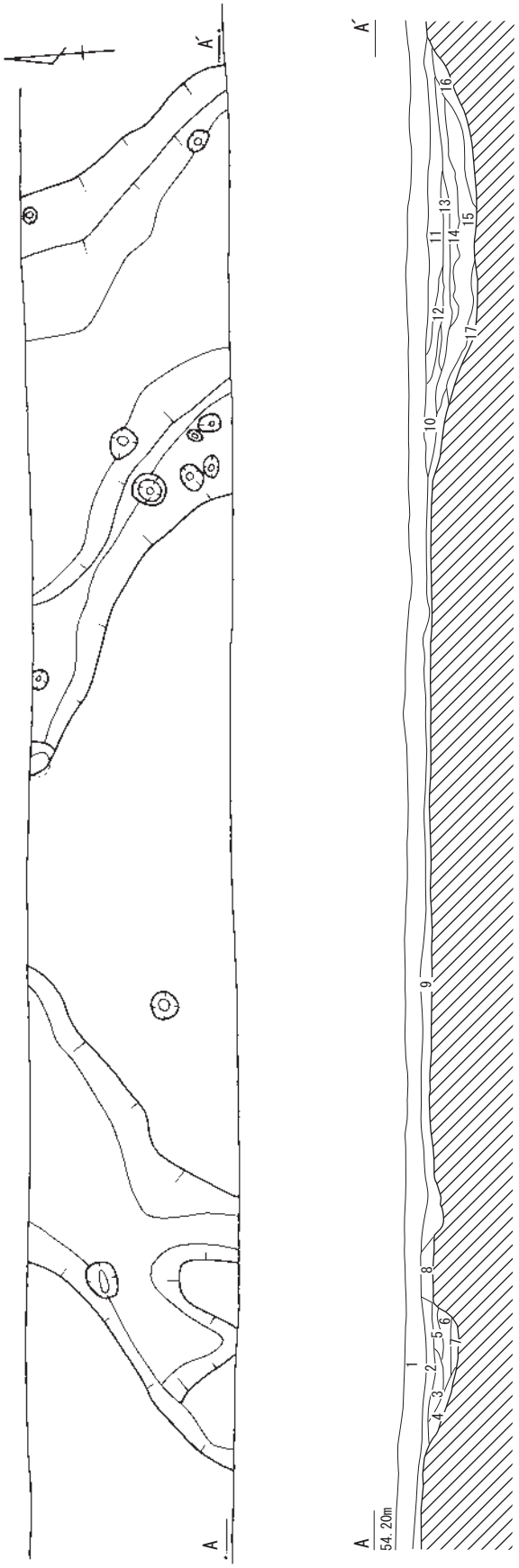


【１号墳土層説明】

1	灰褐色土	浅間A 軽石少量含む。ローム粒微量含む。
2	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。２層より色調暗い。
4	茶褐色土	ローム粒微量含む。
5	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
6	〃	ローム粒微量含む。５層より暗い。
7	黒色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。
8	黒褐色土	ローム粒微量含む。
9	〃	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
10	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。しまりあり。
11	暗茶褐色土	ロームブロック多量含む。
12	黒褐色土	パミス微量含む。
13	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
14	黒褐色土	ローム粒少量含む。
15	茶褐色土	ローム粒子微量、ロームブロック少量含む。
16	〃	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
17	暗茶褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック少量含む。
18	〃	ロームブロック多量含む。
19	〃	ロームブロック微量含む。
20	黒色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。

0　2m

第32図　１号墳

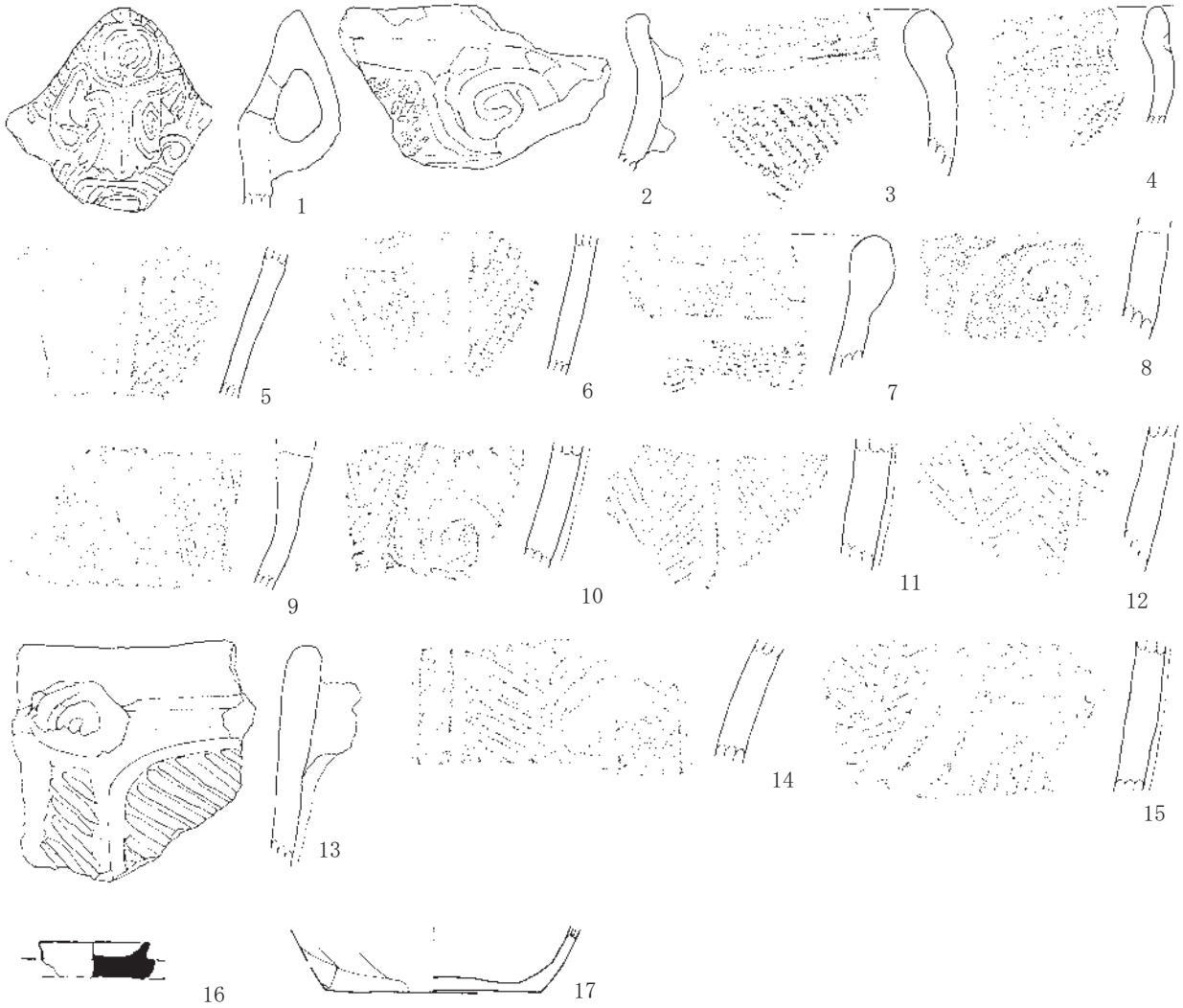


【２号墳土層説明】

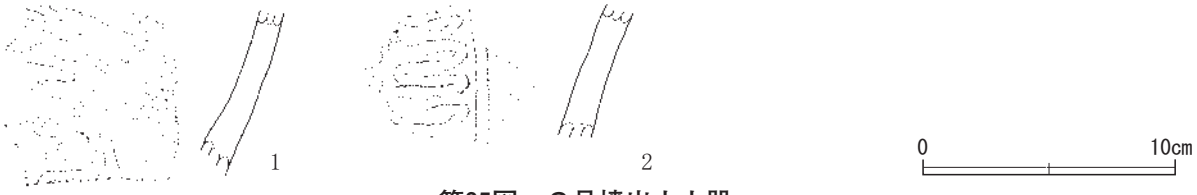
1	暗褐色土	浅間A 軽石少量含む。ローム粒微量含む。
2	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。２層より色調暗い。
4	黒色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
5	黒褐色土	ローム粒子微量含む。
6	〃	５層より色調暗い。
7	黒色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。
8	暗黄褐色土	ローム粒、ロームブロック多量含む。
9	黄褐色土	ロームブロック主体。やや粘性あり。
10	暗茶褐色土	ローム粒子少量含む。
11	茶褐色土	ローム粒子少量含む。
12	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。
13	黒色土	ローム粒微量含む。
14	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック若干含む。
15	〃	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
16	暗黄褐色土	ローム粒、ロームブロック多量含む。
17	黄褐色土	ロームブロック多量含む。

第33図　２号墳

0　2m



第34図　１号墳出土土器



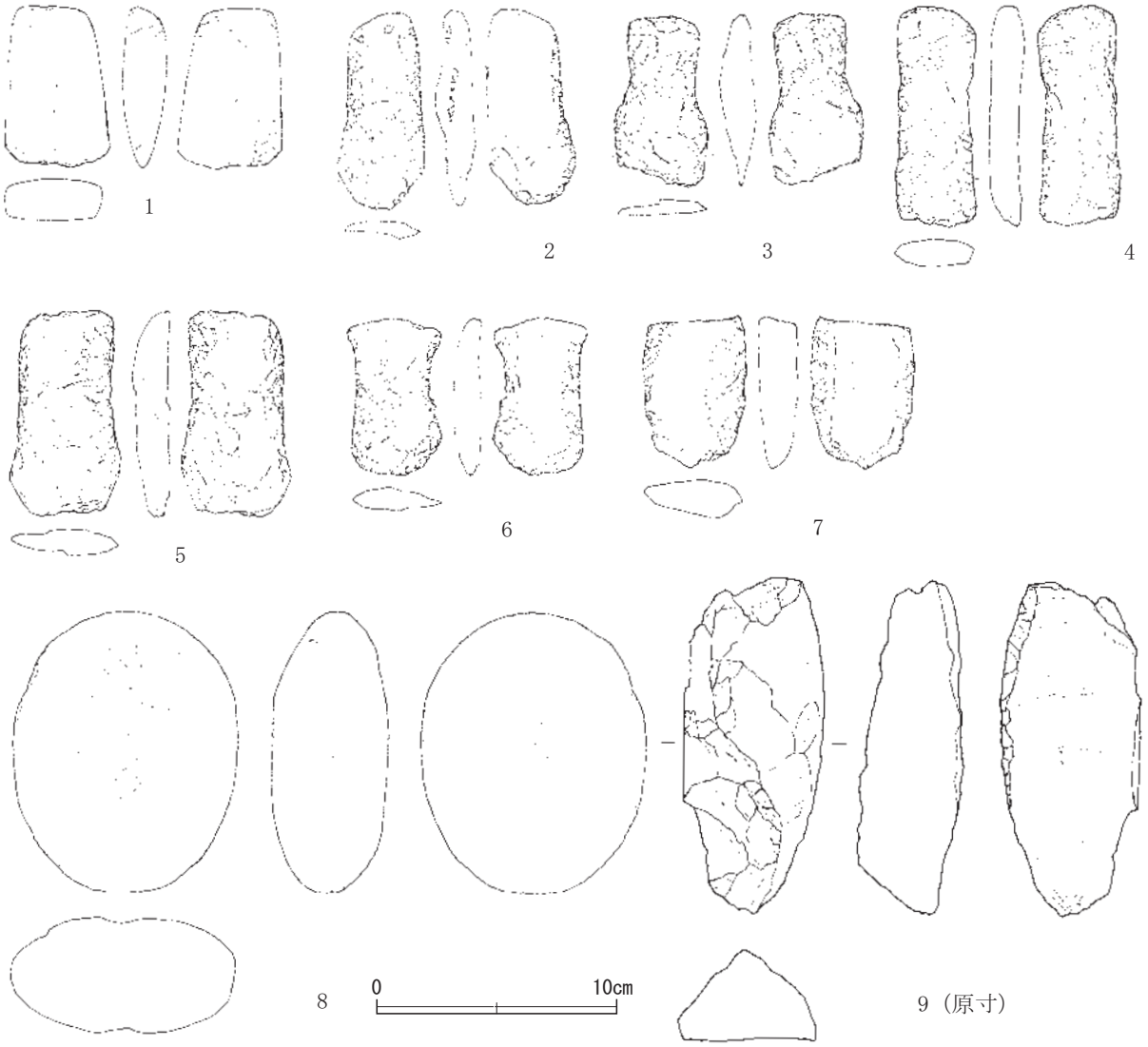
第35図　２号墳出土土器

水窪遺跡第３次調査１号墳出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	長石、褐色粒	－	把手部片 渦巻状沈線文が施された把手。裏面にも孔をもつ。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	普通	石英、長石	－	口縁部片 渦巻状隆線による区画内をＬＲ縄文充填。
3	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	茶褐色	比較的良好	石英、長石	－	口縁部片 口縁に沿って太い沈線。沈線下ＲＬ縄文。
4	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	口縁部片 口縁に沿って連続的な爪形文。沈線による（楕）円形区画。区画内ＲＬ縄文。
5	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 曲線的な隆線文。沈線による区画内ＲＬ縄文充填。
6	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 渦巻状？沈線文と垂下する沈線文。ＲＬ縄文。
7	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	橙褐色	やや不良	石英、長石	－	口縁部片 口縁下太い沈線横走。沈線下櫛状工具による条線文（横位）。
8	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 渦巻状沈線文。櫛状工具による条線文。
9	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、白色粒	－	胴部片 櫛状工具による細かな条線文。
10	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	暗（茶）褐色	普通	長石、白色粒	－	胴部片 渦巻状隆線文。綾杉文。
11	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 隆線文垂下。綾杉文。
12	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	茶褐色	普通	長石、白色粒	－	胴部片 曲線的な沈線文より沈線垂下。沈線間綾杉文。
13	縄文土器 中期後葉 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、褐色粒	－	口縁部片 渦巻文をもつ隆線による区画内を斜行沈線文で充填。
14	縄文土器 唐草文系土器？ 深鉢	－	－	－	橙褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 垂下する沈線文と蛇行沈線文。綾杉文。
15	縄文土器 唐草文系土器 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 曲線的な隆帯文。刺突文。綾杉文。
16	須恵器蓋	4.3（紐径）	《1.5》	－	明灰色	良好	石英、長石、片岩	－	末野産
17	土師器坏	－	《2.7》	8.8	赤褐色	普通	石英、長石、チャート	－	

水窪遺跡第３次調査２号墳出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明（灰）褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 粗雑な蛇行沈線文と垂下する沈線文。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明（灰）褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 粗雑な蛇行沈線文と垂下する沈線文。



第36図　1号墳出土石器

水窪遺跡3次調査1号墳出土石器観察表

番号	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	備考
1	磨製石斧	6.7	4.4	1.8	90.9	ロディン岩	定角式。分断のための擦りきりか。
2	打製石斧	8.2	3.6	1.5	55.8	頁岩	短冊形。刃部に使用痕あり。
3	打製石斧	7.2	4.0	1.5	40.7	頁岩	撥形
4	打製石斧	9.2	3.3	1.4	59.5	黒色頁岩	短冊形。礫素材。
5	打製石斧	8.6	4.6	1.5	73.6	安山岩	短冊形。刃部に使用痕あり。
6	打製石斧	6.5	3.7	1.1	36.6	黒色頁岩	(弱い括れ) 短冊形
7	打製石斧	6.4	4.4	1.6	61.3	安山岩	短冊形。刃部破片。
8	磨石 (凹痕・敲打痕)	11.8	9.4	4.8	724.3	安山岩	両側縁にやや平坦な敲打面を持つ
9	剥片	4.7	1.9	1.4	14.9	赤玉石 (赤色ヘキ玉)	ピエスエスキーユ

（１号溝跡）

Ａ区中央部に位置する。幅 60cm、長さ 60cm にわたり検出されている。溝は、ほぼ南北に走行する。確認面からの深さは、最深部で 18cm を測り、底面は東から西に向かい傾斜する。位置関係からみてＤ区に所在する９号溝と同一遺構の可能性が高い。遺物は検出されなかった。

（２号溝跡）

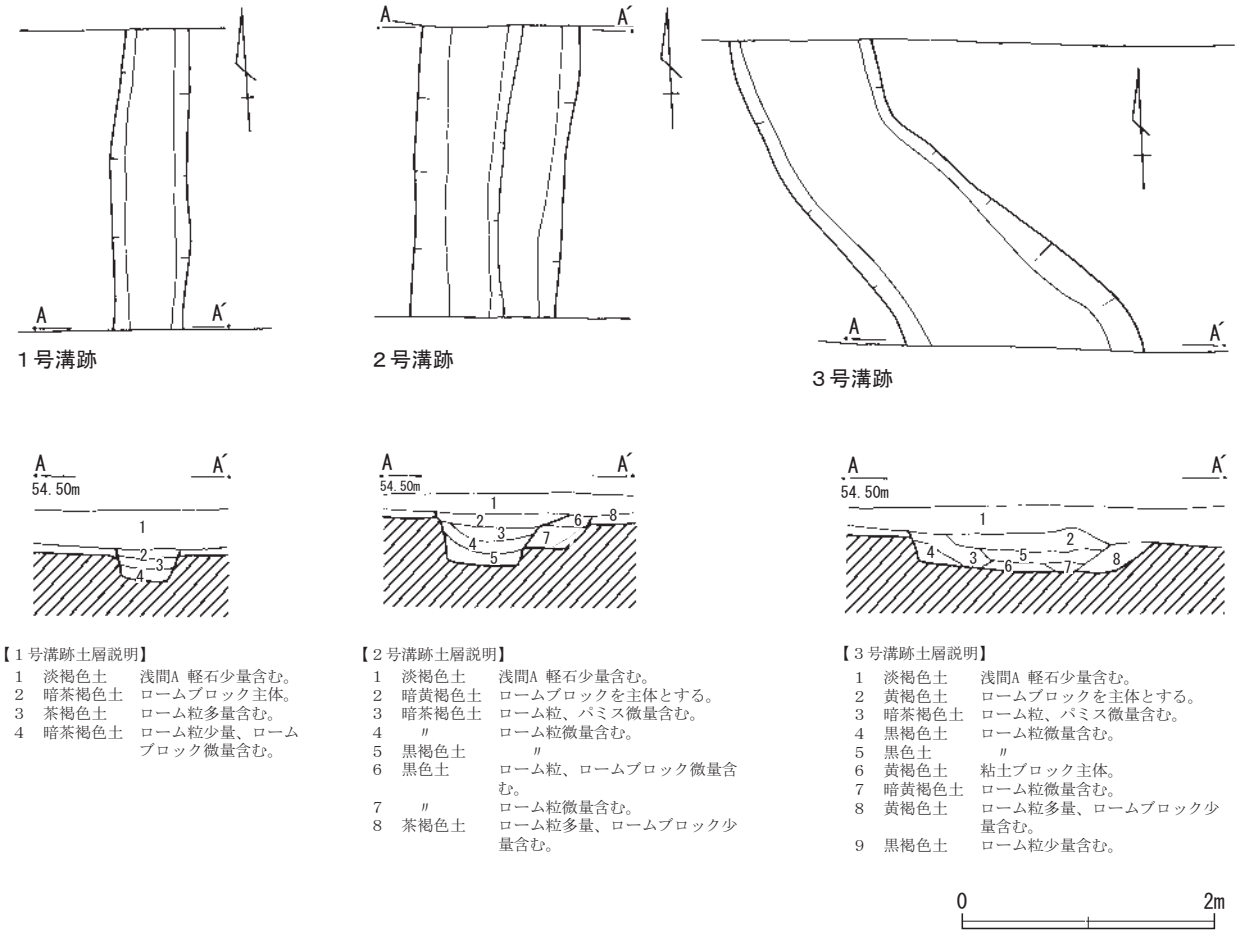
Ａ区東部からＤ区東部にかけて位置する。幅 1.2m、長さ 2.31cm にわたり検出されている。溝は、ほぼ南北に走行する。覆土、溝底面の状況から２時期にわたり掘削されていることが判明している。新しい溝は、一段深く掘り込まれている。確認面からの深さは、古い溝で 18cm、新しい溝で 33cm である。底面は、いずれも平坦である。

（３号溝跡）

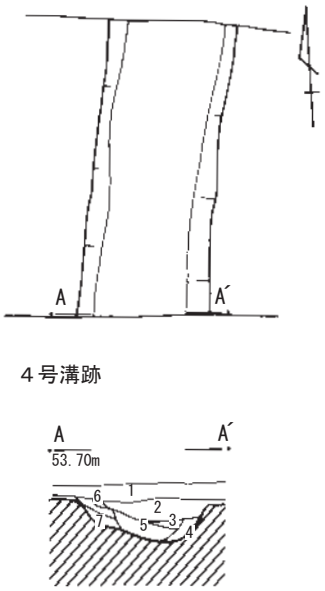
Ａ区東端に位置する。幅 1.44m、長さ 3.0m にわたり検出されている。溝は、北西から南東にかけて蛇行しており、主軸方位はＮ－ 35°－Ｗとなる。確認面からの深さは 24m であり、底面は、ほぼ平坦である。Ｄ区では検出されていないことからＡ区南方向に延びていることが確認された。遺物は検出されなかった。

（４号溝跡）

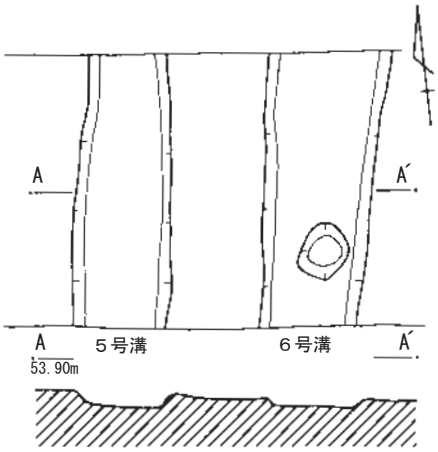
Ｄ区西部に位置する。幅 96cm、長さ 2.4m にわたり検出されている。溝は、南北方向やや東よりに走行する。確認面からの深さは、最深部で 24cm である。底部は西部から東部にかけて傾斜している。遺物は検出されなかった。



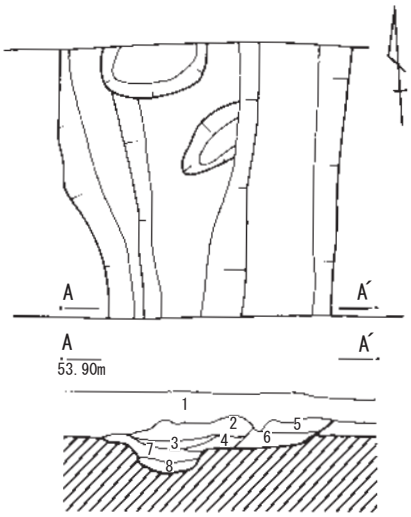
第37図　１～３号溝



４号溝跡



５号・６号溝跡



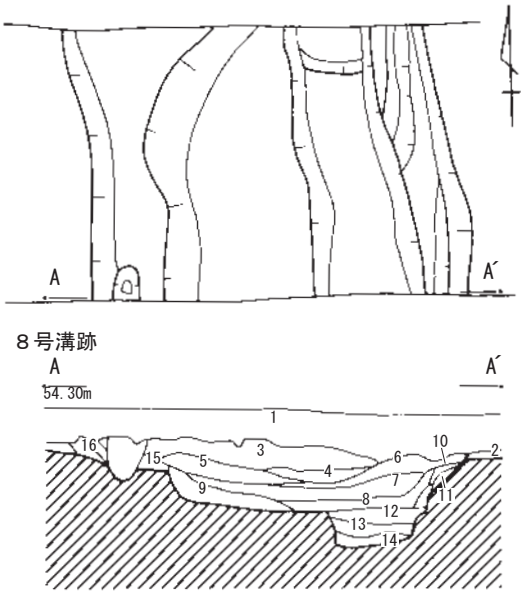
７号溝跡

【４号溝跡土層説明】

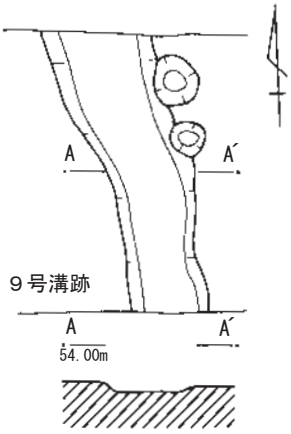
1	暗褐色土	浅間A 軽石少量含む。
2	暗黄褐色土	ロームブロック主体。
3	茶褐色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。
4	黄褐色土	ロームブロック主体。
5	黒色土	ローム粒微量含む。
6	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。
7	黒色土	ローム粒若干含む。

【７号溝跡土層説明】

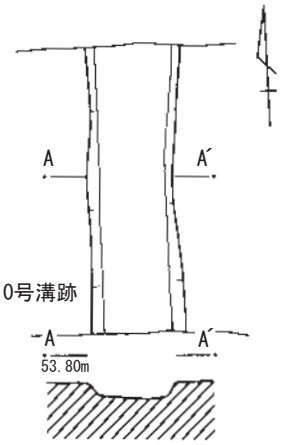
1	淡褐色土	浅間A 軽石少量含む。
2	暗黄褐色土	ロームブロックを主体とする。
3	黒褐色土	ローム粒少量含む。
4	黒色土	ローム粒微量含む。
5	黒褐色土	〃
6	黄褐色土	ロームブロック主体とする。
7	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。
8	茶褐色土	ローム粒、ロームブロック少量含む。



８号溝跡



９号溝跡



10号溝跡

【８号溝跡土層説明】

1	暗褐色土	浅間A 軽石少量含む。
2	暗黄褐色土	ロームブロック主体。
3	黒色土	ローム粒、パミス微量含む。
4	黒褐色土	ローム粒微量含む。
5	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
6	〃	ローム粒微量含む。５層より暗い。
7	黒褐色土	ローム粒微量含む。
8	〃	ローム粒少量、ローム粒微量含む。
9	暗黄褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
10	黄褐色土	ロームブロック主体。
11	黒色土	ローム粒少量含む。
12	黒褐色土	ローム粒少量含む。ロームブロック微量含む。
13	黒色土	ロームブロック主体。
14	黒色土	ローム粒微量含む。
15	暗黄褐色土	ロームブロック主体とする。
16	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。

第38図　４～10号溝

0　2m

（５号溝跡）

Ｄ区中央部に位置する。溝の幅は、北側で 60 ㎝、南側で 72cm であり、長さ 2.19m にわたり検出されている。溝は、ほぼ南北方向に走行する。確認面からの深さは 30cm であり、底面は、ほぼ平坦である。遺物は検出されなかった。

（６号溝）

Ｄ区中央部に位置し、５号溝の東に隣接する。溝は、南北方向やや東よりに走行する。確認面からの深さは 12cm であり、底面は、ほぼ平坦である。底面には、楕円形のピットが存在する。規模は、長さ 2.16m、幅 84cm を測る。底面からの深さは、10cm である。遺物は検出されなかった。

（７号溝）

Ｄ区中央部に位置する。５号溝の西に隣接する。溝の幅は調査区北端で 2.34m、南端で 1.74m を測り、南側に向かい、やや幅狭となる。

底面西よりに一段低い部分がある。土層の堆積状況を見る限り、切り合い関係ではなく、ひとつの遺構と考えられる。確認面からの深さは、溝の最深部で 27cm である。底面は、深い部分では、皿状となり、浅い部分は、平坦である。遺物は検出されなかった。

（８号溝）

Ｄ区中央やや西よりに位置する。２時期あることが確認されている。新しい段階の溝は、北側で、幅 2.82m、南側で幅 2.94m あり、長さは 2.16 ｍを測る。溝西部は、緩やかに傾斜する部分がある。溝東側は、周溝底面下に幅 60cm、長さ 2.1m の溝が検出されている。この溝は、土層の堆積状況から見る限り、古い段階のものであると考えられる。確認面からの深さは 72cm を測る。

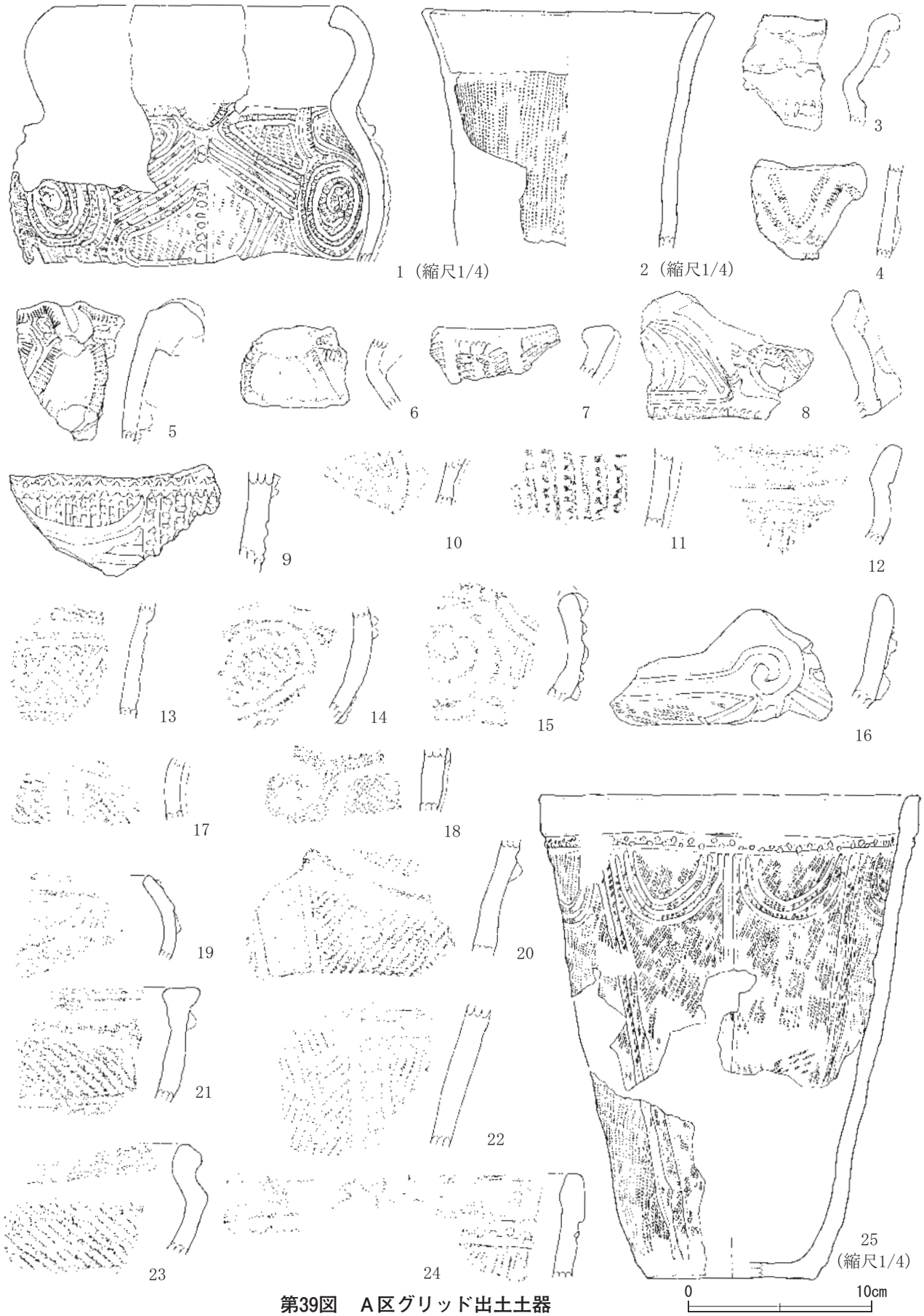
（９号溝）

Ｄ区西側に位置する。幅 78cm、長さ 2.34m にわたり検出されている。溝は、北西から南東にかけて蛇行している。主軸方位は、Ｎ－ 15°－Ｗである。確認面からの深さは９cm を測る。底面は、ほぼ平坦である。溝壁際にピット２基が検出されている。

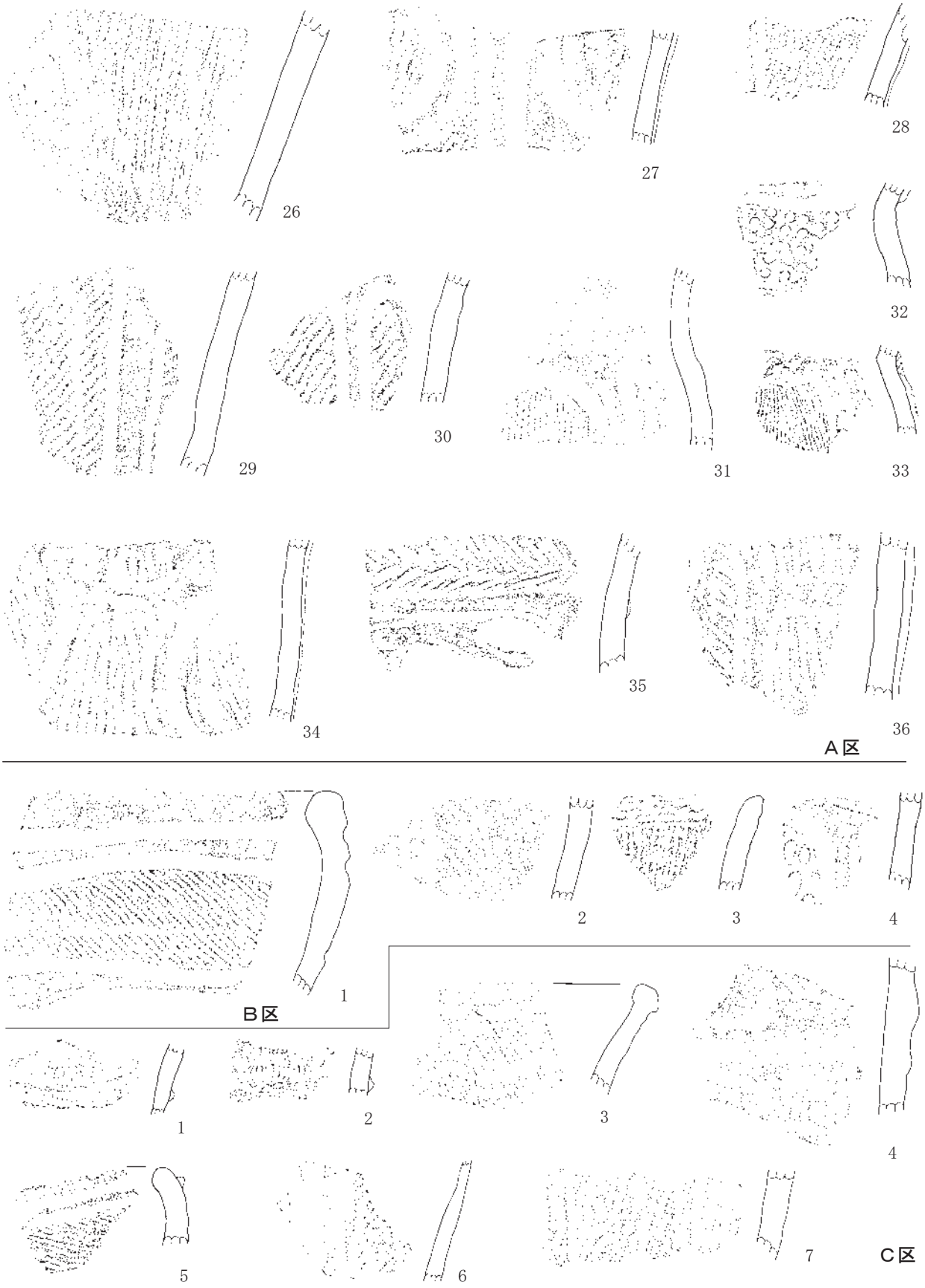
遺物は検出されなかった。位置関係からみて、１号溝と同一遺構の可能性が高い。

（10 号溝）

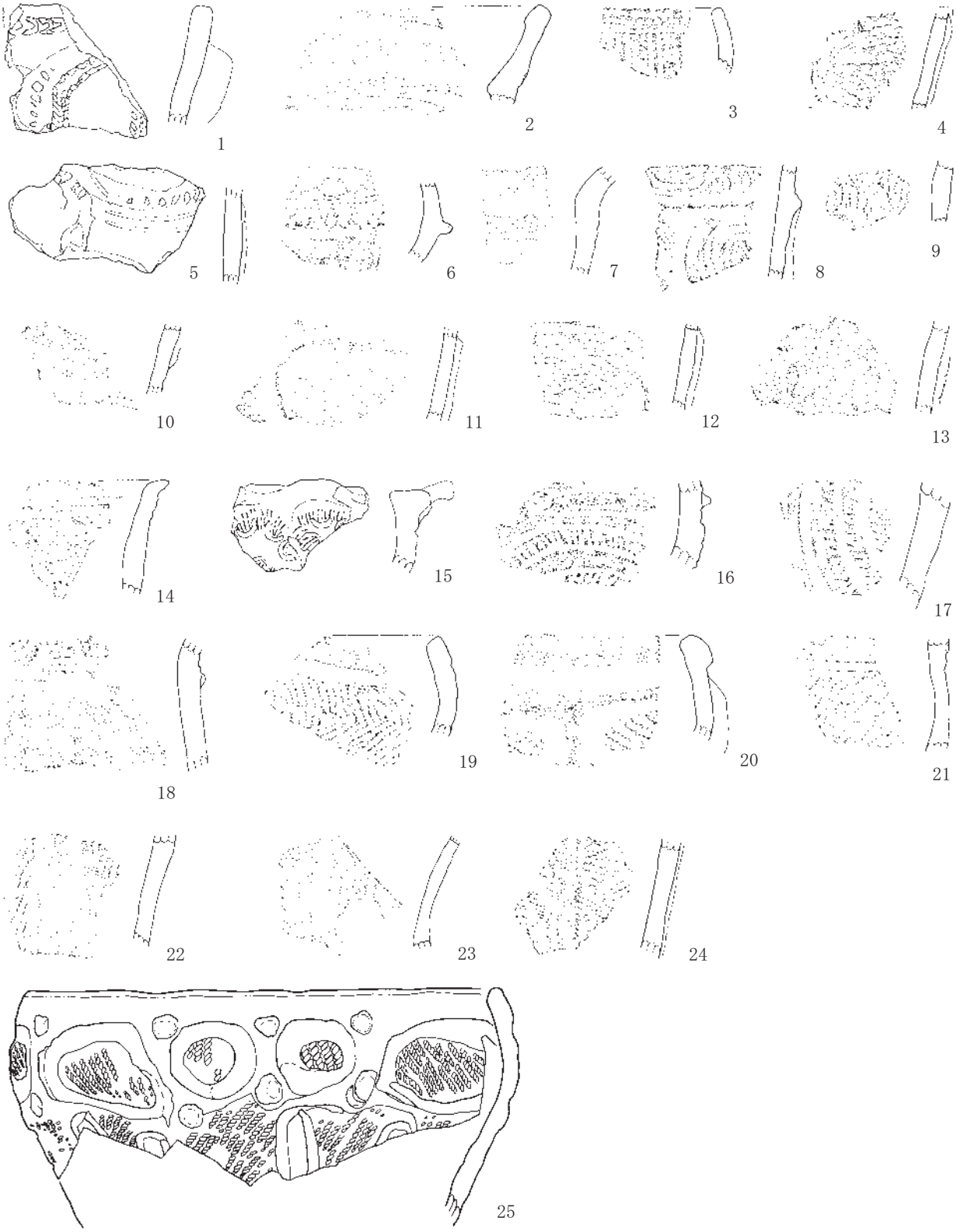
Ｄ区西端に位置する。幅 66cm、長さ 2.28m にわたり検出されている。溝は、ほぼ南北方向にわたり検出されている。確認面からの深さは 15cm を測る。底面は、ほぼ平坦である。遺物は検出されなかった。



第39図　A区グリッド出土土器



第40図　A～C区グリッド出土土器



第41図　D区グリッド出土土器

0　10cm

水窪遺跡第３次調査Ａ区グリッド出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 勝坂末～加曽利Ｅ式初頭 （曽利系） 深鉢	21.0	＜18.5＞	－	茶褐色	普通	長石、白色粒	40%	口縁部～胴部 頸部がくびれる深鉢。 口縁部無文。頸部を連続刻みのある隆線横走。垂下するＹ字状の隆線により４単位に区画。区画内渦巻文と沈線文。地文ＬＲ縄文。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 （曽利系） 深鉢	(21.0)	＜17.1＞	－	暗茶褐色	普通	石英、黒褐色粒	20%	口縁部～胴部 口縁部無文。頸部も弱い１条の凹線めぐる。胴部撚糸文。
3	縄文土器 中期中葉？ 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	長石、白色粒	3%	口縁部片 山形状の小突起。隆線による楕円形区画？胴部を刻みのある隆線横走。
4	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	やや不良	石英、長石	3%	胴部片 隆線による三角形区画に沿って三角押引文。
5	縄文土器 勝坂式 深鉢把手	－	－	－	橙褐色	比較的良好	白色粒、褐色粒	3%	把手 口縁部に刻みのある隆線を加飾した把手。環状にさらに展開した可能性も考えられるがはっきりしない。把手下部円文。
6	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 刻みのある隆線による渦巻文？
7	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	良好	長石、褐色粒	3%	口縁部片 口縁部より隆線文垂下。隆線に沿って連続爪形文と波状の押引文。
8	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	茶褐色	普通	石英、長石	3%	口縁部片 山形状突起？刻みをもつ隆線による渦巻文、三叉文。
9	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 交互刺突文めぐる。その下部は押引文と半円状沈線文。
10	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	灰褐色	やや不良	石英、長石	1%	胴部片 幅広の隆帯に沿って２列の押引文
11	縄文土器 中期中葉～後葉 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 縦位の多条の隆線間に刺突文連続。
12	縄文土器 中期中葉～後葉 深鉢	－	－	－	橙褐色	普通	長石、褐色粒	3%	口縁部片 口縁部の無文帯の下を沈線文がめぐる。その下部を縦位の沈線文で充填。
13	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 横走する沈線間に山形（波状）の沈線文。地文撚糸文。
14	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 ２重の細い沈線による渦巻文？区画内ＲＬ縄文充填。
15	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	やや不良	石英、褐色粒	3%	口縁部片 山形突起？渦巻状隆線文。横長区画内縦位の沈線文。
16	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	長石、褐色粒	3%	口縁部片 口縁部山形状突起部に隆線による渦巻文。隆線と沈線による楕円形区画ないＲＬ縄文充填。
17	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	灰褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 隆線による区画内ＬＲ縄文。
18	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	長石、褐色粒	3%	胴部片 渦巻状隆線による区画内ＲＬ縄文充填。
19	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 波状口縁。隆線による∽字状文。
20	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	赤褐色	比較的良好	石英、褐色粒	3%	胴部片 隆線による楕円区画内ＲＬ縄文。縦位の沈線による区画内にもＲＬ縄文。
21	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、褐色粒	3%	口縁部片 口縁部やや突出。口縁に沿って幅広の隆線。沈線による楕円区画内にＲＬ縄文施文。
22	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	灰褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 縦位沈線文による区画内ＲＬ縄文充填。
23	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明褐色	普通	石英、長石	3%	口縁部片 波状口縁。太い沈線文による区画内ＲＬ縄文。
24	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗褐色	比較的良好	長石、褐色粒	5%	口縁部片 口縁下交互刺突紋。胴部縦位沈線文とＲＬ縄文。
25	縄文土器 連弧文系土器 深鉢	(27.4)	(40)	(12.0)	暗（赤）褐色	普通	石英、褐色粒	40%	口縁部～底部 口縁下の幅狭な無文帯の下を交互刺突文横走。３本１単位の沈線による連弧文と２～３本１単位の垂下する沈線文。地文ＬＲ縄文。

水窪遺跡第３次調査Ａ区グリッド出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
26	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 条線文垂下。撚糸文。
27	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	石英、長石	3%	胴部片 幅広の隆帯による楕円形？区画内ＬＲ縄文充填。
28	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、長石	3%	胴部片 隆線文垂下。ＬＲ縄文。
29	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	茶褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 沈線による区画内ＲＬ縄文と蛇行沈線文。
30	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	赤褐色	普通	石英、長石	3%	胴部片 沈線によるＵ字状区画内ＲＬ縄文。
31	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、褐色粒	3%	胴部片 無文帯の下太い沈線による渦巻状ないし楕円形区画文。区画内縦位の櫛目文。
32	縄文土器 加曽利Ｅ式併行 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 幅広の隆帯横走。刺突文充填。
33	縄文土器 曽利系 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 刺突文のある隆線文。櫛状工具による条線文。
34	縄文土器 加曽利Ｅ式併行 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	5%	胴部片 隆線による円形あるいは楕円形区画内斜位と縦位の沈線文。
35	縄文土器 曽利系 (唐草文系？) 深鉢	－	－	－	暗褐色	やや不良	長石、褐色粒	3%	胴部片 幅広の隆帯。横位の綾杉文。
36	縄文土器 曽利系 (唐草文系？) 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	石英、褐色粒	3%	胴部片 幅広の隆帯による区画内斜位と縦位の沈線文。

水窪遺跡第３次調査Ｂ区グリッド出土遺物観察表

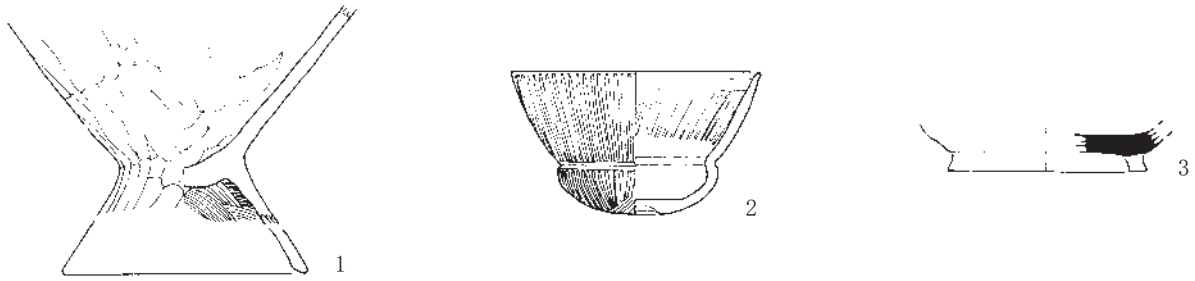
番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明褐色	普通	長石、褐色粒	5%	口縁部片 口縁部に沿って太い沈線文横走。沈線による楕円形？区画内ＲＬ縄文充填。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 縦位の沈線による区画内ＲＬ縄文充填。
3	縄文土器 加曽利Ｅ式併行 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	石英、褐色粒	3%	口縁部片 口縁部交互刺突文。胴部撚糸文。
4	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	やや不良	長石、褐色粒	3%	胴部片 太い沈線によるＵ字状？区画内粗大な刺突文。

水窪遺跡第３次調査Ｃ区グリッド出土遺物観察表

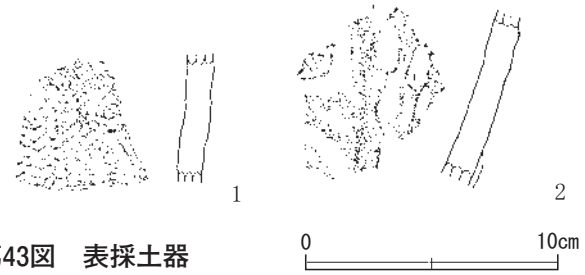
番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	茶褐色	比較的良好	長石、褐色粒	3%	胴部片 曲線的な隆線に沿って押引文。
2	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗(茶)褐色	普通	石英、長石	3%	胴部片 沈線文垂下。ＲＬ縄文。
3	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 隆線による楕円形区画に沿って押引文。
4	縄文土器 曽利系 深鉢	－	－	－	暗橙褐色	普通	長石、褐色粒	3%	口縁部片 口唇部肥厚。曲線的な沈線文。地文斜行条線文。
5	縄文土器 加曽利Ｅ式併行 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 曲線的な隆帯と沈線文。
6	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	胴部片 ３本１単位の沈線文垂下。ＬＲ縄文。
7	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	白色粒、褐色粒	3%	口縁部片 波状の口縁に沿って隆線。ＲＬ縄文。

水窪遺跡第３次調査Ｄ区グリッド出土遺物観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	灰褐色	やや不良	石英、長石	－	口縁部片 波状口縁。刻みのある幅広の隆帯に沿って２列の押引文。
2	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	石英、褐色粒	－	口縁部片 口縁の無文体下連続爪形文と沈線文横走。
3	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	(茶)褐色	普通	石英、長石	－	口縁部片 横位と縦位の押引文。
4	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗褐色	やや不良	長石、褐色粒	－	胴部片 幅広の隆帯による楕円形区画内２列の押引文。
5	縄文土器 勝坂式併行 (阿玉台式) 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	金雲母、石英、 褐色粒	－	胴部片 刻みのある幅広の隆帯による区画。
6	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	灰褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 刻みのある隆線に沿って２列の押引文。
7	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 ２列の押引文。
8	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	石英、褐色粒	－	胴部片 幅広の隆帯による楕円形区画に沿って沈線文。
9	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 連続爪形文。
10	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 断面三角形の細かい隆線貼付け。三角押引文。
11	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	(暗)赤褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 断面三角形の曲線的な隆線。
12	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	石英、長石	－	胴部片 幅広の隆帯による楕円形区画内複列の波状文。
13	縄文土器 勝坂式併行 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	石英、褐色粒	－	胴部片 刻みのある曲線的な隆線。波状文。
14	縄文土器 勝坂式併行？ 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	口縁部片 口唇部外反。口縁に沿って３列の押引文。
15	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	橙褐色	比較的良好	石英、褐色粒	－	口縁部片 口縁部に半環状突起。隆線に沿って半円形圧痕文連続。
16	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	褐色粒、黒褐色粒	－	胴部片 刻みのある隆線。曲線的な沈線間にも刻み。
17	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 刻みのある曲線的な隆線。
18	縄文土器 勝坂式 深鉢	－	－	－	暗赤褐色	普通	石英、長石	－	胴部片 隆線による三角形区画。胴部ＬＲ縄文？
19	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	明褐色	普通	長石、褐色粒	－	口縁部片 波状口縁に沿って太い沈線文。 ＲＬ縄文を横位と縦位に施文し、羽状の構成。
20	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	やや不良	白色粒、褐色粒	－	口縁部片 隆線による楕円形区画内ＲＬ縄文充填。
21	縄文土器 勝坂式併行？ 深鉢	－	－	－	暗茶褐色	比較的良好	白色粒、褐色粒	－	胴部片 交互刺突文。沈線文横走。胴部ＲＬ縄文。
22	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗灰褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 縦位沈線による区画内ＲＬ縄文。
23	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	暗褐色	普通	長石、褐色粒	－	胴部片 縦位の沈線による区画内ＲＬ縄文充填。
24	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	－	－	－	(暗)赤褐色	普通	白色粒、褐色粒	－	胴部片 微隆起線による区画内ＬＲ縄文充填。
25	縄文土器 加曽利Ｅ式 深鉢	24.0	＜12.0＞	－	暗茶褐色	比較的良好	石英、褐色粒	30%	口縁部～胴部 口縁部は太い沈線による楕円区画。区画間に円文。 区画内ＲＬ縄文。胴部「U」字状の沈線文による区画。 区画内ＲＬ縄文充填。



第42図　Ｂ区グリッド出土土器



第43図　表採土器

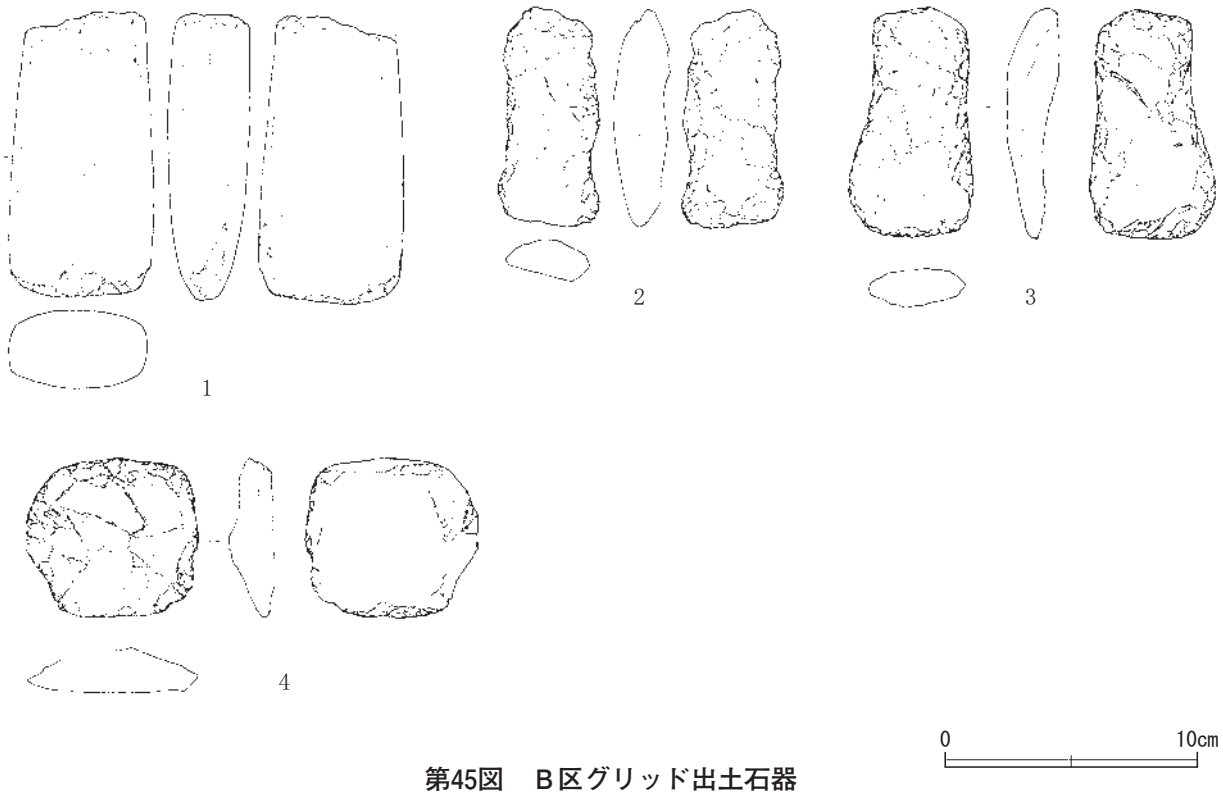
水窪遺跡第３次調査Ｂ区グリッド出土土器観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	台付甕	－	《8.5》	－	赤褐色	良好	石英、長石、角閃石	図示 40%	外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。脚部内面のみ刷毛目あり。
2	坩	9.7	5.6	－	橙褐色	普通	石英、チャート、微砂粒	90%	外面磨き顕著、内面ナデ後、一部ヘラミガキあり。
3	高台椀	－	《1.3》	8.0	明灰色	普通	石英、長石	図示 70%	末野産

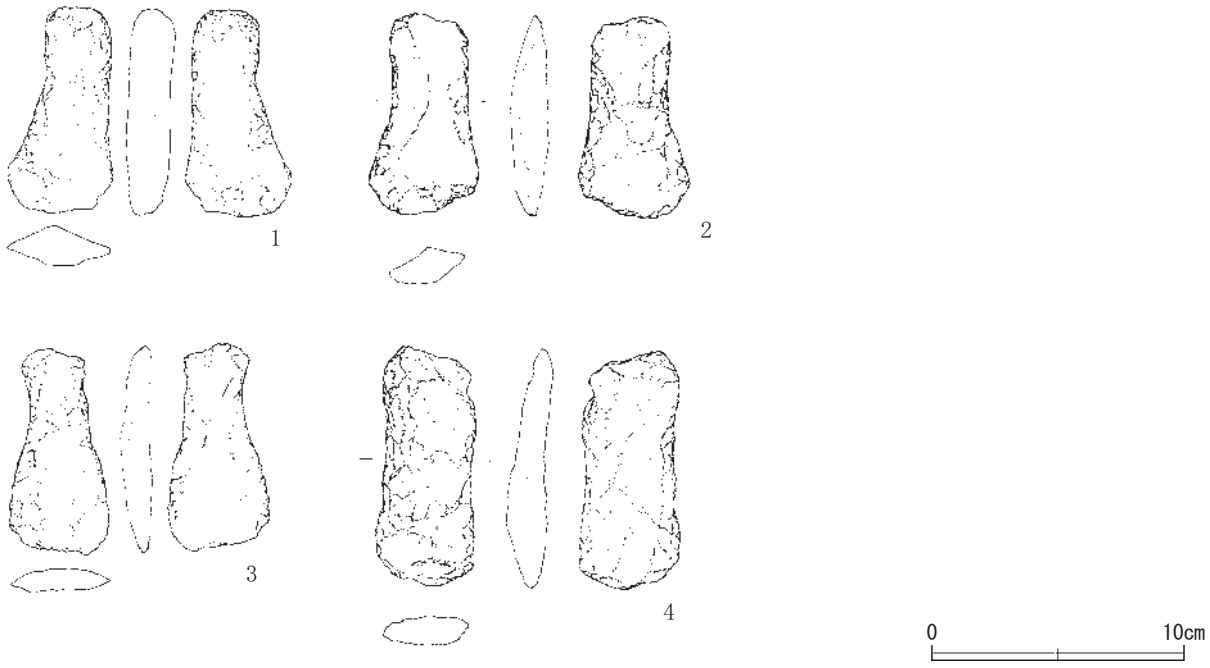
水窪遺跡第３次調査表採土器観察表

番号	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	深鉢	－	－	－	くすんだ褐色	普通	繊維混入	3%	胴部片、複節縄文。条線文。
2	〃	－	－	－	〃	〃	石英・長石	〃	胴部片、曲線的な隆線文と沈線文。粗大な刺突文。

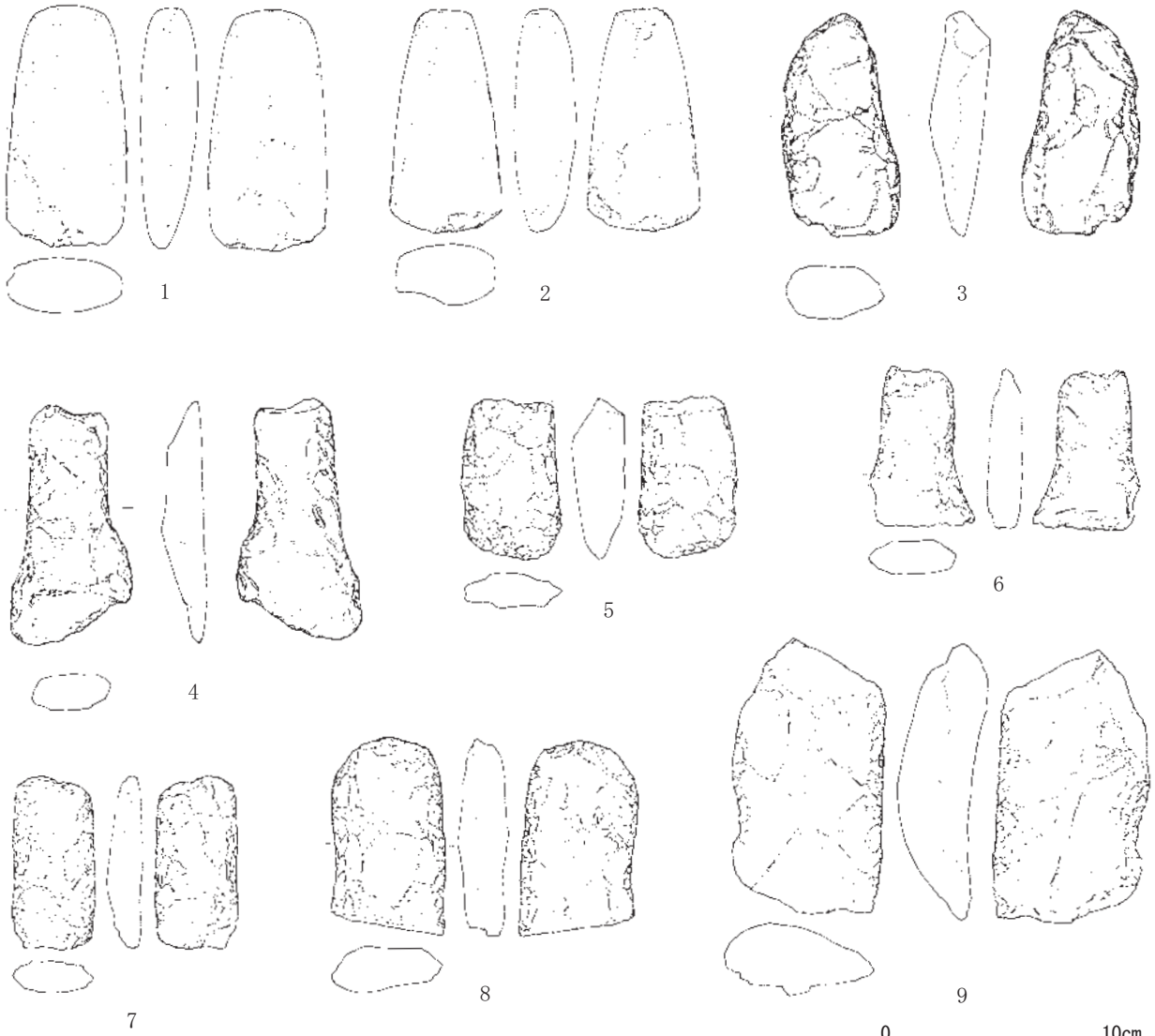
第44図　A区グリッド出土石器



第45図　B区グリッド出土石器



第46図　C区グリッド出土石器



第47図　D区グリッド出土石器

0　10cm

水窪遺跡３次調査Ａ区グリッド出土石器観察表

番号	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	備　　考
1	打製石斧	9.2	4.6	1.3	61.9	黒色頁岩	刃部に使用痕あり
2	打製石斧	8.0	4.0	0.8	28.5	黒色頁岩	撥形。刃部に使用痕あり。
3	打製石斧	8.5	4.5	1.3	53.2	安山岩	完形。(弱い括れ) 短冊形。
4	打製石斧	8.2	4.3	1.3	47.6	黒色頁岩	撥形
5	打製石斧	11.1	5.5	1.8	83.6	黒色頁岩	撥形
6	打製石斧	8.8	5.5	1.6	68.7	黒色頁岩	トランシェか。刃部に使用痕。
7	打製石斧	9.6	4.9	2.5	92.3	黒色頁岩	完形。撥形。
8	打製石斧	10.0	5.4	1.1	63.0	ホルンフェルス	完形。撥形 (偏刃)。刃部に使用痕。
9	打製石斧	7.7	3.8	1.3	35.2	ホルンフェルス	略完形。短冊形。
10	打製石斧	8.1	4.3	1.2	37.7	黒色頁岩	完形。撥形 (偏刃)。
11	打製石斧	7.5	3.8	1.3	46.5	安山岩	完形。(弱い括れ) 短冊形。
12	打製石斧	7.0	3.4	0.9	18.9	黒色頁岩	基部欠損。撥形 (偏刃)。
13	打製石斧	5.8	3.9	1.1	25.1	黒色頁岩	完形。短冊形。刃部使用痕あり。
14	打製石斧	7.2	3.6	2.1	57.1	緑色岩	基部欠損
15	打製石斧	6.0	4.2	1.2	32.0	安山岩	被熱。基部欠損。裏面に装着痕。
16	掻器	6.1	6.3	1.6	51.9	黒色頁岩	刃部に微細剥離痕
17	掻器	6.4	4.3	2.4	73.1	黒色頁岩	刃部に微細剥離痕
18	スタンプ型石器	11.8	6.6	5.0	570.0	安山岩	

水窪遺跡３次調査Ｂ区グリッド出土石器観察表

番号	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	備　　考
1	磨製石斧	11.2	5.6	3.2	400.1	緑色岩	定角式
2	打製石斧	8.6	3.9	2.2	87.2	黒色頁岩	短冊形
3	打製石斧	9.0	4.9	2.1	91.1	黒色頁岩	完形。短冊形。
4	掻器	6.3	6.8	1.8	84.3	黒色頁岩	刃部に微細剥離痕

水窪遺跡３次調査Ｃ区グリッド出土石器観察表

番号	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	備　　考
1	打製石斧	8.1	4.1	1.7	65.9	頁岩	撥形
2	打製石斧	7.9	4.3	1.5	49.1	黒色頁岩	完形。(弱い括れ) 短冊形。
3	打製石斧	8.2	3.9	1.2	40.4	ホルンフェルス	撥形
4	打製石斧	9.4	4.0	1.8	63.0	ホルンフェルス	略完形。短冊形。

水窪遺跡３次調査Ｄ区グリッド出土石器観察表

番号	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	備　　考
1	磨製石斧	10.2	5.0	2.4	216.6	かんらん岩	定角式
2	磨製石斧	9.4	4.7	2.6	180.9	かんらん岩	定角式
3	打製石斧	9.5	5.0	2.6	112.4	黒色頁岩	刃部欠損。撥形。
4	打製石斧	11.0	5.2	1.8	72.7	安山岩	完形。撥形 (偏刃)。刃部に使用痕。
5	打製石斧	6.8	4.1	2.2	77.8	黒色頁岩	短冊形。基部欠損。
6	打製石斧	6.8	4.4	1.5	49.0	頁岩	撥形
7	打製石斧	7.4	3.4	1.5	47.9	安山岩	短冊形
8	打製石斧	8.4	4.7	2.1	116.8	黒色頁岩	短冊形。基部破片。
9	打製石斧	11.7	6.3	3.2	275.6	黒色頁岩	未成品か

Ⅳ　まとめ

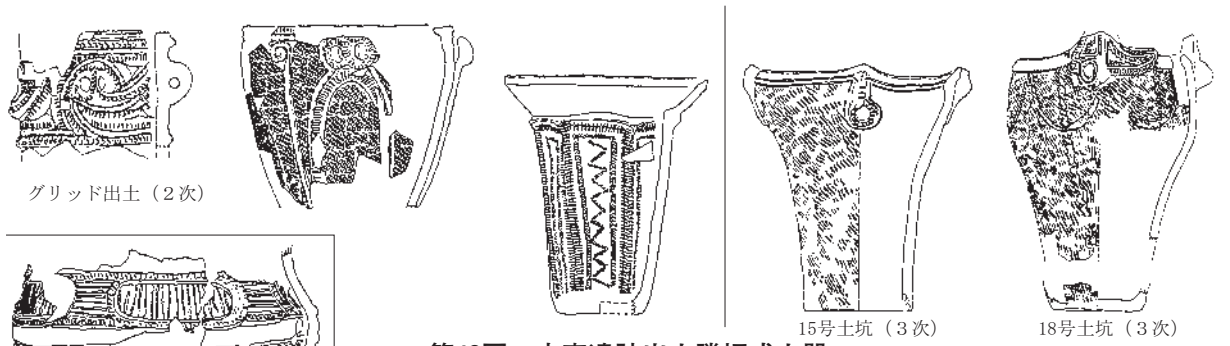
１．水窪遺跡３次調査出土縄文土器について

水窪遺跡３次調査では、住居跡、土坑等から豊富な土器群が出土している。１～２次調査の成果を含め、深谷市北西部域における縄文時代中期の中核的集落と言う事ができる。

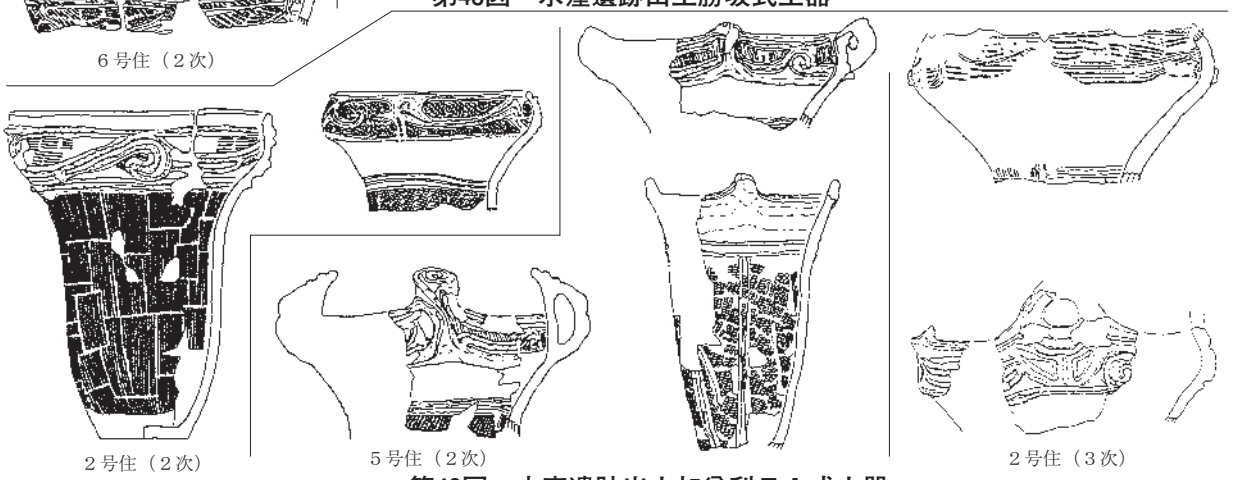
15、18号土坑出土土器は、勝坂式段階に位置づけられる。当該期に特徴的なｷｬﾀﾋﾞﾗ文等により加飾された楕円形、山形の横帯区画がみられず、やや異質な観を受けるが、勝坂式でも古くは遡らないとみられる。18号土坑№.１は、15号土坑より、さらに１段階下る可能性がある。口縁部から垂下する隆帯の形状、隆帯上に施文される沈線等から埼玉編年Ⅷ期段階であろう（谷井他1982）。この他にも勝坂式段階の遺物として２次調査グリッド出土土器（深谷市教委2006）等がある。水窪遺跡の縄文集落が、最も拡大するのは、加曽利Ｅ式段階である。本遺跡２号住居跡は、覆土中より加曽利ＥⅢ式段階の深鉢形土器が出土しているが、竪穴住居跡に付随する埋設土器は、加曽利ＥⅠ式新段階であろう。それ以前の加曽利Ｅ式は、第２次調査２号住居跡出土土器（深谷市教委2006）がある。地文を撚糸とし、横Ｓ字を連結する加曽利ＥⅠ式古段階に位置づけられるものであるが、本報告２号住居跡と同様に加曽利ＥⅢ式段階の土器群も混在していることから、住居跡埋没途中か、または埋没後に再度土器の埋設、廃棄等の行為があったと考えられる。

本報告３号住居跡からは、大型の唐草文系の土器群の出土がある。北武蔵地域では、比較的多く出土するものである。加曽利ＥⅢ式段階併行と考えられ、同様な類例として、山崎山出土土器（深谷市教委2006）があげられる。

（参考文献）
谷井　彪他1982「縄文土器群の再編」
㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要
谷井　彪・細田　勝1997「水窪遺跡の研究－加曽利Ｅ式土器の編年と曽利式の関係からみた地域性－」埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要13
深谷市教委2006「岡部町史－原始・古代編」



第48図　水窪遺跡出土勝坂式土器



第49図　水窪遺跡出土加曽利ＥⅠ式土器

報告書抄録

ふりがな	みずくぼいせき
書　　名	水窪遺跡
副 書 名	第３次調査
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	第96集
編著者名	鳥羽政之
編集機関	深谷市教育委員会
所 在 地	〒366-0823　深谷市本住町17番地３　　TEL048(572)9581
発 行 日	平成20年３月29日

所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
水窪遺跡（みずくぼいせき）	埼玉県深谷市（さいたまけんふかやし）西田（にしだ）379－2他	11218	63-040	36°12′57″	139°13′18″	平成18年９月４日から 平成18年11月24日まで	688㎡	道路建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡 古墳跡	縄文～ 古墳時代	住居跡４軒 古墳跡２基 土坑　20基 溝跡　10条	縄文土器 石　　器 土師器 須恵器	当遺跡は、縄文時代中期中葉～後半における中核的集落である。

写 真 図 版

A区全景

調査区全景（南より）

発掘調査風景

1 号住居跡遺物分布状況

1 号住居跡埋甕検出状況

2 号住居跡完掘状況

2 号住居跡№. 1 検出状況

2 号住居跡遺物分布状況

図版２

３号住居跡完掘状況

３号住居跡遺物分布状況

４号住居跡完掘状況

４号住居跡遺物分布状況

１号墳完掘状況

２号墳完掘状況

15号土坑遺物出土状況

７号土坑遺物出土状況

１号住居跡No.１

１号住居跡No.３

１号住居跡No.８

２号住居跡No.１

２号住居跡No.２

２号住居跡No.４

２号住居跡No.５

２号住居跡No.６

２号住居跡No.９

２号住居跡No.10

２号住居跡No.21

図版４

３号住居跡No.１

４号住居跡No.２

４号住居跡No.４

７号土坑No.１

18号土坑No.１

15号土坑No.１

18号土坑No.３

A区グリッドNo.１

A区グリッドNo.25

１号住No.１

１号住No.２

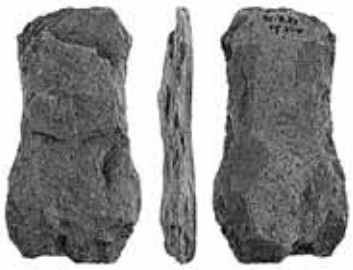
１号住No.３

２号住No.25

２号住No.26

A区グリッドNo.１

A区グリッドNo.２

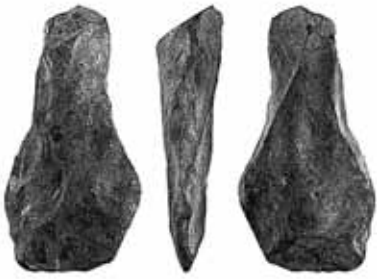


A区グリッドNo.３

A区グリッドNo.４

A区グリッドNo.５

A区グリッドNo.６



A区グリッドNo.７

図版６

１号墳周溝№.１

Ｂ区グリッド№.１

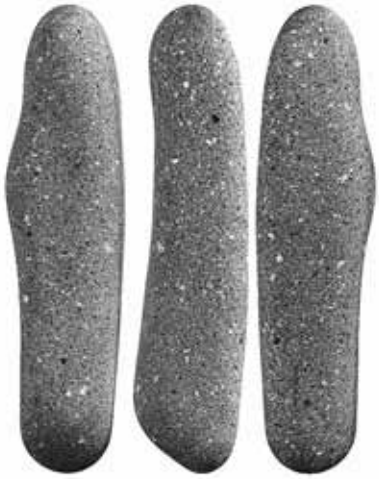
Ｄ区グリッド№.１

Ｄ区グリッド№.２

Ａ区グリッド№.18

Ａ区グリッド№.16

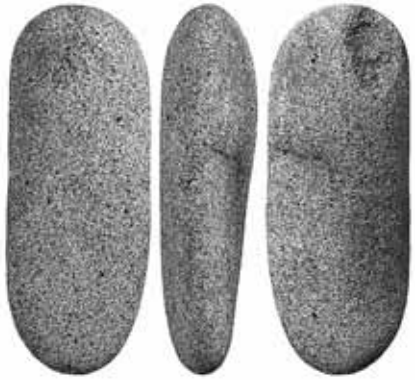
Ｂ区グリッド№.４



１号住居跡№.４

２号住居跡№.28

２号住居跡№.31



２号住居跡№.30

３号住居跡№.３

水窪遺跡-第３次調査-

2008年３月29日
編集発行　深谷市教育委員会
　　埼玉県深谷市本住町17-3